

時代を経て、一九二〇年には社會主義經濟の建設、(工業、農業の電化、コオベレーション等)を進め、一九二一年には新經濟政策を採用し、共產主義の建設事業に積極的に努力して來た。新經濟政策に對しては「労働者反對派」の運動があり、又トロツキの永久革命論に基づく農民との同盟反對等の極左的反對論もあつたが、レーニンの方針に従つてこれらを克服した。一九二四年一月レーニンの死後、トロツキは黨の民主化を主張し黨内極左的分派を作るに至り、ジノビエフ、ブハーリン、スターリン等の幹部等によつて克服したが、續いて一九二六—八年黨内に右翼偏向が生じ先づジノビエフ、カメネフ等が幹部の地位を追はれ、一九二八年にはブハーリン亦追はれ、スターリンがレーニン主義の忠實な繼承者として指導の地位に立つてゐる。(尙一九二六年黨はソビエツト全聯邦共產黨と改稱した。)ロシア共

産黨は、革命前より幾度か困難と危険に遭遇したが、常に困難と危機に打ち勝つて其の度毎に強化され、黨が革命に全く成功した後に於いても、右翼的、極左的偏向を常に克服し、黨は理論的にも組織的にも統一性を保持して強化し國際プロレタリアートのために貢献しつゝ、他方ソビエツト政權(政府)を指導し一九二八年には經濟五ヶ年計劃を立て今日既に豫期以上の成功を収め、大機械工業の發展、農業の機械化と共產主義的集團經營等に成功し、生産力は既に大戰前に比し一五〇に増大し、一九二九年には七時間労働制を實施せしむるに至つた。

ロシア共產黨の組織は工場、農村並に軍隊等の細胞を單位とし、年一回大會が召集される。大會は最高機關で六十三名(候補三十四名)の中央委員と、一六三名の中央統制委員、六名の中央審査委員とを選出する。六十三名の中央委員に中央審査委員、中

中央統制委員の常任幹部とが加はつて、中央評議員會(Plenum)を構成し、評議員會は九名の政治部員(候補八名)、十三名の政治部員(八名の候補)、五名の書記局員と一名の書記長を選出し、更に黨機關紙主筆、機關新聞代表者、第三インターナショナル執行委員會への黨代表委員を選出する。黨規律は嚴格で鐵の如き統制を持ち、黨員は大會に於いて自己の意見を積極的に述べるが、一度決定したことは一切反對を許さない。且つ黨員である限り上層機關の命令には絶対に服従すべき義務を持つてゐる。黨員數は革命直後約二十萬人であつたが、一九二二年に七十二萬五千人に達し、同年不良黨員を淘汰して五十四萬九千人に減少し黨の構成を労働者四八%、農民及職人一九%、インテリゲンチヤ二五%、其他四%となし、革命的労働者を主要構成要素としてをり、一九二九年再び清黨(淘汰)を斷行し現在革命的労働

者が五七%に達してゐる。現在黨員數は百三十餘萬人で内十五萬は婦人の黨員であり、中央機關紙「プラウダ」は百數十萬部發刊されてゐる。(ロシア社會民主労働黨の項を参照)

ロシア社會民主労働黨(—シヤカイミンシユロイドト—)

ロシア共產黨の前身でロシア社會民主黨と略稱す一八八三年プレハノフ、ザスリツチ、アクセロイド等がスイスで組織したマルクス主義の「労働者解放團」が「ロシア社會民主労働黨は資本主義に壓迫されてゐる労働者の完全な解放を期す」と宣言したに始まり、正式には、プレハノフ、レーニン等によつて一八九八年三月ミンスクにロシア社會民主労働黨創立大會を開催して建設された。當時ロシアを吹き捲つてゐた「經濟主義」に對する闘争の中に結黨したもので、大會に出席した者は、「労働者解放團

争同盟」「労働者新聞の一團」「猶太労働者同盟」等六個團體の代表者であつた。一九〇三年七月八月ブラツセルで黨二回大會を開催し、二十六個機關の代表者六十五名が出席したが其席上でボルシェビイキ(レーニン派)と、メンシエビイキ(マルトフ、ブレハ、ノフ派)に分裂し、第三回大會は一九〇五年四月、五月ロンドンで開催されたが、出席者はボルシェビイキのみであり、第四回大會は一九〇六年四月ストツクホルムに合同大會として開催し、ボルシェビイキとメンシエビイキから百十一名の代表者が出席し中央委員會はメンシエビイキ七名ボルシェビイキ三名を以て構成した。第五回大會は一九〇七年四月五日ロンドンで開催し、百四十五機關の代表者が集まり、中央機關はボルシェビイキの提案を排斥したが大會はボルシェビイキの提案を支持し、ボルシェビイキが勝利を得た。ロンドン會議後は反動の暴虐な時代

で大會は開催されなかつたが一九〇七年の第二國會解散後、レーニンを議長として全露大會が開催され、次いで一九〇八年十二月パリ會議に於いてメンシエビイキ派の解黨問題に對し明確なる反對決議をなし、一九一二年一月ブライク會議に依てメンシエビイキの解黨派を黨から除名した。其後世界大戰となつて一九一四年六月ブラツセルに合同會議を召集したが、各派の協調を見るに至らずボルシェビイキは同年九月戦争反對の宣言を發し、又一九一五年三月ベルリンに於てレーニン、ジノビエフ等のロシア社會民主黨在外黨員會議は「祖國の防禦戦を××し、帝國主義戦争を××に變ずべし」と宣言し、世界革命と共産インターナショナル創立の意圖を宣揚した。一九一七年三月ツアアの政府が倒され、ボルシェビイキの全露大會が開かれ同七月第六回大會が開催され、二百六十七名の代議員が出席し、黨員二十萬

人を算した。この大會で、反革命派の政權の剝奪、歐洲戦争の休止、プロレタリア權力の樹立問題が議せられ、プロレタリア革命を目指して進み、十一月に政權を掌握し、一九一八年三月第七回大會に於いてロシア共産黨と改稱し更に一九二六年全聯邦共産黨と改稱した。(ロシア共産黨の項を見よ)

労働 (ロード)

労働とは、自然の物質的素材に對して、並に過去の労働の結果である原料に對して人間の肉體的、精神的力を働かかけて、之を變更し、人類の生活に必要な物資を作ることである。換言せば資本主義社會では斯る物資は商品であり、従つて労働は商品の使用價值及價値(其項参照)を造出する二重性を持つてゐる。即ち、同一の労働行程は、米、布、鐵等々の使用價値の造出者として見れば耕作労働、織物労働、製鐵労働等々で個々の有用労働であり各々異つ

てゐるが、價値の造出者として見れば、一般的、抽象的な人間労働力の支出であつて、凡て質的に同一であり量的にのみ區別される。人々は個々の有用労働に携はることなく労働力を支出することも出来ないが、同時に労働力を支出することなくして働くことは出来ない。又労働者が資本家に賣渡すのは労働ではなく労働力であつて、斯かる労働の二重性にこそ資本の搾取の秘密が存在し、労働者が奴隷化させられるのである。(労働力の項を見よ)

労働力 (ロードリョク)

労働力とは、人間の生命のうち存在し、労働者が労働によつて發動させる肉體的、精神的諸能力の總體であつて、價値の源泉である。労働力は資本主義社會においては一つの「商品」であるが剩餘價値の唯一の造出者である。労働力が商品たるためには賃銀労働者の存在を前提し、賃銀労働者は労働力を

自由に販賣することが出来るが自分自身には非使用
 価値であり、購買者たる資本家は労働力を機械、原
 料、工場等に自由に働かし使用することが出来ねば
 ならぬ。資本家は一日幾錢の雇傭契約の形で労働力
 を購求し、この労働力を活かした有用労働として労働
 対象に働かしめ、剰餘価値を生産せしめてこれを搾
 取する。これは労働力の価値と、労働力が活かした勞
 働となつて價值増殖を行ふこと——即ち労働力と勞
 働力の使用（労働）とは異つてゐるからである。勞
 働力の価値とは、労働力を生産するに社會的に必要
 な生活資料（生活資料の中には衣、食、住の資料の
 外修養費、家族、子供の生活資料も含んでゐる）の
 価値に等しく、従つて労働賃銀は労働者の社會的に
 平均的に必要な一日の生活資料の價格であつて、且
 つそれは資本家に前貸した労働力の價格を、労働し
 た後に受け取るものである。又、労働力は、労働行

程に於いて商品の中に價值として體現するのみなら
 ず、現存する凡ての機械、原料、其他一切の商品は
 過去に於て支出された労働力の結晶體、凝結體であ
 り、それ故にそれらの品物に價值が存在するのであ
 る。又、労働力は、如何なる種類の労働にあつても
 抽象的人間労働力として凡て等質であり、量的にの
 み計量され、其の大小は、一定時間内に支出する勞
 働力の強弱の度合（労働の強度）及び労働時間の長
 短によつて異なり、同一生産力の下では時間の大小
 によつて労働力の大小が評量される。

尙、スミス、リカルド等のブルジョア經濟學の決
 定的誤謬は、労働に含まれてゐる交換價值（労働力
 の價值）とその使用價值（労働）とを混合した點で
 この區別と關係を初めて明かにしたのはマルクスで
 ある。（價值、剰餘價值の項を参照せよ）

労働運動（ロード・ウインド）

労働者階級の生活改善及資本主義からの解放の爲
 の一切の運動を總稱して労働運動といふ。労働者は
 自然成長的には労働組合に組織され、日常闘争を通
 じて階級意識を明確にされ、プロレタリアの革命的
 黨に結成され、マルクス・レーニン主義に基いて勞
 働運動に参加する。尙、特殊的には、労働組合によ
 るかかる運動を労働運動といふ場合があるが、それ
 は決して經濟闘争を意味するものではない。

労働會議所（ロード・カイギシヨ）

労働取引所のこと、雇主側及労働者側の代表者
 を以つて構成され、労働状態の調査並に改良のため
 の協議をなし労働の取引を行ひ以て資本の搾取と支
 配を合理化するための資本家の機關。十九世紀以來
 フランス、ベルギー、オランダ等に存在し、現在の
 「國際労働會議」は之に該當し、日本の海事協同會も
 此一種である。協同會は勞資双方の代表及逕信省關

保當局の参加によつて構成され労働統計、職業紹介、
 病院經營、共済、紛議解決等に當つてゐる。

労働價值説（ロード・カチセツ）

「價值」の項及「價值形態」「價值論」の各項を見よ。

労働騎士團（ロード・キシダン）

「ナイツ・オブ・レーバー」を見よ。

労働貴族（ロード・キゾク）

労働者の上層——熟練工、労働監督、役付職工、
 及共済、保險組合の幹部、改良主義組合の有給幹部
 等が労働貴族である。社會民主主義の物質的基礎で
 あつて、帝國主義の特殊利潤の分前にあづかつて生
 活してゐる者で資本の代理人である。

労働學校（ロード・ガッコ）

労働者教育の一機關。階級對立の激化せる社會の
 下で公然と學校經營を許されてゐるものは、大部分
 社會民主主義者、改良主義者、協調主義者、愛國主

働者等によつて經營されてゐるものである。現在、日本労働學校（大正十年開校、鈴木等の労働者教育協會經營）大阪労働學校（大正十一年開校、校長賀川豊彦）柳島労働學校（大正十三年開校、帝大セツツルメント經營）産業青年會夜間講演會（大正十三年開校、キリスト教産業青年會經營）等の社會民主主義者の手に經營されるものを始め、東京市労働講習會（大正十三年開校、東京市社會局經營）關西労働學院（協調會大阪支所經營）王子學院（隣保館經營）信愛學院（有馬頼寧經營）等全國に亘り約二十七、八個の労働學校が存在する。又革命的労働者教育の機關として學校經營は日本には一つも許されず、只労働者及革命的インテリゲンチヤに依つて半秘密の研究會を組織して行つてゐる。

労働協約（ロード・キョーク）

労働者側が團體交渉によつて資本家と結ぶ雇傭條

では、労働條件の維持改善の闘争は、必然に革命的、政治的闘争の一部分として遂行しなければならぬ。故に、労働組合は、革命期においては權力の組織（ソビエツト）に参加し、生産機關を管理し、プロレタリアートが權力を樹立した後においては、生産の管理、調節、労働時間労働賃銀の決定等の共產主義の建設事業に参加せねばならぬ。次に労働組合は、其の指導精神（終局の目的）から言へば革命的組合（赤色組合）改良組合（黄色組合）及協調組合（御用組合）並サンヂカリズム組合等があり、組織の點から區別すれば、産業別組合（國際的、全國的、地方的）と職業別組合（全國的、地方的）及び合同組合があり、又聯合體、單獨組合等の別がある。

労働組合運動（ロード・クミアイウンド）

労働組合（其項参照）の遂行する一切の運動を指すのであるが、革命的労働組合運動と改良的労働組

件の契約。「團體協約」を見よ。

労働組合（ロード・クミアイ）

労働組合とは、資本主義下に於いては、労働大衆を組織し訓練し、労働條件の維持向上の日常闘争を遂行すると共に資本主義制度の廢絶を最終の目的とする労働者の大衆的團體で共產主義の學校である。これに對して社會民主主義者は、「労働條件の維持改善」（ウエツプ等）を目的とするのが労働組合である」と稱してゐるが、これは明かに労働階級の利益を全部的に裏切り、其の代償として部分的に改良しようといふもので、支配階級の利益を代表するものである。労働組合は、歴史的には労働條件の維持改善の闘争（目的ではない）から發達したものであるが、劣悪なる労働條件は資本主義制度に因るもので、労働條件の維持改善も結局資本主義の廢絶を最終の目的としなければならぬ。特に帝國主義時代に於い

合運動の二潮流が存在する。革命的労働組合運動としては、國際的には赤色労働組合インターナショナル（プロヒンターン）によつて代表され、日本では舊評議會、現在の協議會の運動がこれである。赤色労働組合の闘争は、（一）經濟的要求に基づく闘争（ストライキ其他）を政治的闘争の一要素として遂行し工場内の大衆的闘争に重點を置いて經濟的ストライキを激發指導し、一定の條件の下ではこれを政治的ストライキに轉化する、（二）共產黨の指導を受けその闘争に積極的に参加し（黨を支持し組合内に於ける黨フラクション及細胞の活動を助成する）、（三）組合員及大衆を日常闘争の過程に於いて革命的に教育し、且反革命的思想に對して闘争する、（四）綱領を持たず行動綱領のみを持ち、其のスローガンは平常時には經濟的要求による闘争を重視するが革命的状態の下では革命的政治的スローガンを公然と掲げて

闘争する、(五)組織形態は産業別全國組合の總聯合による集中的統一組織を主張し、革命的地盤に立つて組合の統一のために戦ふ、等。

改良主義に基づく組合運動は、これは國際的にはアムステルダム・インターナショナルに依つて代表され、各國の右翼及中間派組合(日本では總同盟、海員、官業組合、全國組合同盟、總聯合等)がこの種の組合である。其の特徴は、(一)改良的經濟闘争(及び夫に基づく政治運動)に組合運動を極限し、部分的微少な利益のために労働者の全般的利益を裏切り社會民主主義的政黨を支持し、共產黨及其闘争に敵對する、(二)帝國主義時代には經濟的ストライキすら眞實に遂行しようと思はず、大衆的闘争を抑止し、幹部の交渉によつて争議を解決し、資本家にストライキを賣渡すことを専念し、労働組合の統一に反對する、(三)幹部は産業民主主義を唱へ資本家の機關

に参加し、全く資本家の代理人と化し、社會愛國主義を鼓舞すると共に、革命的時期には公然とプロレタリアの敵として立ち現はれ革命を粉碎しようとする。尙、この外にサンヂカリスト及アナキストの組合運動があるがこれも一種の經濟主義であつて改良主義の一變種に過ぎない。

労働組合會議 (ロイド・クミアイキギ)

労働組合の總聯合による統一組織の一形態であるが、日本には、曾つて關東労働組合會議、大阪労働組合會議が存在し、全國労働組合會議の即時結成が左翼組合の討議によつて提唱されたが總同盟の裏切り、中間派組合のサボタージユによつて破壊され、今日では組合會議そのものも有名無實となり、只メーデーの協議、大ストライキの共同應援の程度に止まつてゐる。(總聯合の項を見よ)

労働組合主義 (ロイド・クミアイシユギ)

「組合主義」の項を見よ。

労働組合法 (ロイド・クミアイキ)

労働組合の團體運動を規定した法律。ブルジョア國家は最初は労働組合の組織及活動を絶対に禁歴したが、労働者は抑壓、屈せず組合を組織して闘争し組合の力が強大となると、國家は労働者の團結權だけは認めて組合を公認するが、其の代り、組合の目的、行動、條件、取締、監督等色々の制限を設けて又は各種の抑壓法令を制定して事實上組合の活動を取締り、革命的闘争を禁歴し、組合を骨ぬきにし資本の用具に化さうとする。

(一)英國では一七七八年及一八〇〇年に「不法團結禁止法」が制定され、其後一八二四年頃より取締が緩和され、一八七一年に至り労働組合法案が制定され、同七六年に更に改正され、改良的労働組合運動が公認され、續いて一九〇六年に「労働争議調停

法」が實施され、一九一三年に新たに組合法が改訂追加されて今日に至つてゐる。フランスでは一七九一年以來組合は禁止されストライキは犯罪とされて來たが一八六四年に團結權のみが認められ一八八四年に労働組合法が制定され團結罷業權が認められた。ドイツに於いては一八七八年ビスマルクの鎮壓法によつて労働者の一切の結社が禁歴され一八八七年に同法が撤廢されて以來労働組合は公然と發達して來たが、法律上認められたのは一九一九年ドイツ革命に於ける社會民主黨のブルジョア的新憲法によつてである。

(二)日本では、自然に發達した労働組合を治安警察法によつて抑壓して來たが、大正十五年治警第十七條を撤廢すると共に労働争議調停法、暴力行爲取締法、騷擾罪、治安維持法等によつて労働組合運動を彈壓してゐるが、労働組合は益々發達しつゝある

ので政府は第五十一議會に反動的勞働組合法案を提出したが、審議未了に終つたので更に一九三〇年濱口内閣は次の如き反動的法案を、第五十九議會に提案し勞働組合取締法を制定することにした。其の骨子は、(一)組合の目的は、勞働條件の維持改善及共濟、(二)軍人、軍屬、俸給生活者及既に勞働者として雇はれてゐない者は組合員となれない、(三)組合の全活動は政府の指揮、監督の下に行はれる、(四)法人勞働組合の規定を設け、資本家の御用組合を獎勵する、(五)組合の解散権が政府にあり、資本家は組合員に對して雇傭の拒否、解雇、抑壓、買収、強要と如何なる迫害を加えても罰しない。且つ資本家の利益を代表する者を放逐する事を禁ず等である。これに對して勞働者は、(イ)國際的、國內的に勞働組合の組織及び闘争の完全なる自由、(ロ)罷業の絶對自由、(ハ)活動の完全なる自由(言論、出版物の配

布、集合の自由、政治運動への参加又は組織の自由、罷業資金並活動資金の徵集及び募集の自由、デモンストレーションの自由、罷業破りに對する闘争の自由)、(ニ)官憲の勞働組合の解散、決議取消権を廢止し、組合の組織及活動を阻害する者を處罰すること、治安維持法、暴力行為取締法、争議調停法等一切の勞働者農民抑壓法令の撤廢等を要求して闘争してゐる。

勞働契約 (ロードレーヤク)

資本家が勞働者との間に結ぶ勞働力の賣買及勞働條件に關する契約。勞働時間、休憩時間、公休日、勞働賃銀額、賃銀支拂方法、解雇退職に關する規定及其の手當、作業規則、共濟施設等の相互自由契約による勞働條件のとりきめがこれである。しかし、實際は資本家の強制契約であつて、資本家の提示した條件で、且つ資本家が適當と認むる勞働者のみ

雇傭するもので「自由契約」の片鱗も存在しない。勞働權 (ロードレーケン)

カール・メンガーが唱導した三大基本權(生存權、勞働權、勞働全收獲權)の一つで、勞働の能力と意志とを有する者は當然勞働の機會を與へらるべき權利を保有するといふのである。勞働權は、社會の生産力の發展の點から言つても、勞働者の利益の點から言つても當然である譯けであるが、しかし、かゝる權利はメーガー流のブルジョアの權利の問題ではなく(メンガーは結局資本家及國家が勞働權を保證しうるかの如き幻想を勞働者に與へ愛國主義を鼓吹するのである)反對に勞働者の死活の問題であり、階級闘争の問題、勞働者が力によつて解決すべき問題である。即ち、解雇反對、失業反對、解雇手當の増額、失業手當法の制定等の要求及「失業者に食と仕事を保證しろ」のスローガンを掲げて大衆闘争を

遂行し、最終には資本主義を廢止し勞働者の歴史的任務を達成することである。

勞働憲章 (ロードレーケンシヨ)

各國資本家及其代理者(政府、ダラ幹達)が、ベルサイユ平和條約中(第四二七條)に規定した國際聯盟の一機關たる國際勞働會議の目的に關する基本的規定を勞働憲章と稱す。其の内容は、(一)勞働は單なる商品と看做すべきに非ず、(二)勞働者及使用人が一切の適法なる目的の爲に結合する權利の確認(三)生活標準を維持するに足るべき賃銀の支給、(四)一日八時間勞働制の實施を達成することを目標とすること、(五)一週二十四時間以上の休日制度の採用、(六)幼年勞働者の廢止、少年勞働者の勞働に對し其の教育の繼續及び身體の發育を確保するに足る制限を設けること、(七)原則として男女同一勞働に對して同額の賃銀を受くべきこと、(八)各國に

於いて法律に依り定むる労働条件の標準については
適當なる考慮を附せらるべきこと、(九)各國は、勞
働者保護の法律又は規則の實施を保證するため、監
督制度を設け、婦人を之に参加せしむることの九ヶ
條である。この労働憲章は明かに労働者を偽購して
階級闘争を抑壓し、産業の合理化により、資本の擄
取と支配を強めしめようとするもので、これを實施
するや否やは一に資本金家及政府の實際的利害に依つ
て決定され、日本では未だ殆んど大部分實施される
迄に至つてゐない。

労働祭 (ロードーサイ)

「メーデー」の項を見よ。

労働市場 (ロードーシジョー)

資本金家と労働者との労働力の賣買取引のことを勞
働市場といふ。即ち労働力の價格は市場に於ける商
品の價格と同様に、一定の社會的の値段が付けられ

需要供給の關係、生活資料の價格の騰落、勞資の力
の關係等の相異等によつて労働力の價格に變動があ
る。又労働力の取引の場所は、或は個々の工場(會
社)で行はれ、或は職業紹介所やダラ幹、親方等の
手を通じて行はれ、或は東京の富川町の如く自由勞
働者が一定の場所に集合して買手を待ち雇主と直接
取引を行つたりする。

労働者管理 (ロードーシヤカンリ)

労働者(労働組合及工場委員會)による産業即ち
工場及經營の管理のこと。工場管理、産業管理とも
言はれ、これは資本主義の下で労働者が資本家の工
場經營に參與することではなく、革命期に於いて、
労働者が生産の秩序を維持し、且つ××××××××
××××××××××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××××××××××

した後にはのみ行はれねばならぬことで、具體的には
プロレタリア國家のソビエツト組織に參與し、ソビ
エツト産業統制委員會と労働組合に依て産業の經營
及管理を行ふことである。從て社會民主主義者が産
業民主主義政策に基づき資本家の經營へ參加する事
及労働者が工場の使用料、或は利益の一部を資本金
に提供することを條件として「工場經營」をする事
は、労働者管理ではなく、労働者を小生産者化せし
むる爲の裏切行爲である。

労働者階級 (ロードーシヤカイキョウ)

「プロレタリア階級」を見よ。

労働者教育 (ロードーシヤキョウイク)

「プロレツト・カルト」を見よ。

労働者農民政府 (ロードーシヤノミミンセイフ)

プロレタリアの戰略に基づいて立てられたスロー
ガン又は政治機關である。ロシア革命に於いて、レ
(ロ)

ーニンがソビエツト權力を「労働者農民の權力」と
名づけたのに始まり、これは其の階級的性質はプロ
レタリア獨裁國家を意味するものである。しかし、
國際的には「労働者農民政府」の性質及内容に次の
三つの區別がある。(一)資本主義の工業生産が未だ
充分發展せず獨占的大資本が一國の支配を確立せず
農業生産が主要な地位を占めてゐる國では労働者農
民政府はブルジョア民主主義革命に於ける労働者農
民の××的民主的政府を意味し、未だプロレタリア
獨裁の性質を持つに至らない。(二)資本の集中と大
工業が發達し資本制生産が支配的地位に立つてゐる
帝國主義強國に於いては、労働者農民政府は、プロ
レタリア獨裁の性質を持つ(プロレタリア獨裁國家
とは同一概念ではない)。(三)現在のソビエツト・
ロシアの如く、××××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××××××××××
××××××××××××××××××××××××××××

て、利潤、利子、地代等の不勞所得を一切排除し、各勞働者が其生産物の總てを所有する權利が當然であると主張し、これを勞働全收益權と呼んだ。この主張の代表者はメンガーで、ダムソン、ブルードン等もこの主張者である。彼等の「富」を生産するのは「勞働」のみであるといふ考へ方自體が、マルクス主義に反しスミス、リカルドの勞働價值説に基づく個人主義的、資本主義的理論で社會愛國主義者の立場である。又、プロレタリア獨裁の國家に於いても生産力の發展のためには蓄積が存在し、且つ剩餘價值はプロレタリアの權力の維持、共產主義社會の建設、教育、其他勞働者階級の全體の利益のために用ひられねばならぬもので、勞働全收益權説は不可能で誤謬であるのみならず、封建的小生産者の空想をブルジョア的に主張したものである。

勞働爭議 (ロイドソーギ)

勞働爭議調停法 (ロイドソーギチョーテイホー)

「爭議調停法」を見よ。

勞働編成 (ロイドーハンセイ)

資本家が勞働力を購買し、雇入れた勞働者に勞働を分擔せしめ、最大に生産能力を發揮し、資本の搾取と支配を最も苛酷ならしむるようにならざるを夫々各職場、各部署に配置することを勞働編成といふ。又資本家が産業の合理化を遂行し資本の搾取と支配を一層強めるために男女少年勞働者の入れ替え、熟練工及高給工を解雇し臨時工、不熟練工を代りに採用し以つて勞働を新たに編成することを勞働再編成といふ。

勞働大學 (ロイドーダイガク)

英國に於ける勞働學校で、一九〇九年に創立された中央勞働學院が後、勞働大學と名稱を變更し、ブレブス・リーグ(其項参照)によつて教育方針が指

勞働者が資本家に對して勞働條件及夫に關連せる問題で闘争すること。紛議、要求、ストライキ、サボタージュ、示威、交渉などとなつて現はれる。生産關係における勞資の利害の對立が根本問題で、最初經濟的要求による日常闘争が主であるが、勞働者階級の自覺及客觀狀勢の變化に伴つて、政治的要求を掲げて闘争するようになる。争議それ自身は未だ資本主義を全體的に××するものではないが、しかし、勞働爭議を激發し活潑に闘争することなくして勞働者大衆を革命的に教育訓練し、革命的組織に結成することも、プロレタリアートが歴史的に勝利を確保することも不可能である。又、争議の表はれた形態及要求は同一であつても、革命的目的のために行ふのと、改良的目的のために行ふのでは根本的意義内容及戰術を異にしてゐる。(ストライキ戰略を参照せよ)

導さる。創立以來サウス・ウエールズ坑夫聯合會、全國鐵道従業員組合の共同管理により經營されて來たが、一九二五年ラスキン大學と共にイギリス勞働組合會議總評議會の教育委員會の管理に移された。教育過程は二ケ年でマルクス主義的教育を施し、晝間、夜間の講座、通信教授、寄宿舎等の設備があり全英には同大學系の勞働大學が一〇四八校、二萬五千七十名の學生を抱擁してゐると稱す。

勞働取引所 (ロイドトリヒキジヨ)

一般的には「勞働市場」のこと。(其項を見よ) 特殊的には、一八九二年フランスに於いてサンデカリストによつて全國勞働取引所聯合が組織され、勞働力の賣買取引を行ひ、一切の政治闘争に反對し、C.G.T.(其項参照)運動に参加して來たが、一九〇二年正式にC.G.T.に加盟し今日に至つてゐる。

労働農民黨 (ロードローモント)

大正十四年十二月一日農民労働黨が禁止されるや直ちに日本農民組合は再舉を聲明し、結黨準備會を召集し、大正十五年三月五日總同盟、總聯合、司厨同盟、製陶同盟、官業、市電自治會等と共に結黨し労働農民黨と命名した。(中央執行委員長杉山元次郎書記長三輪壽壯) 同黨は結黨前より總同盟、官業等のダラ幹の要求によつて労働組合評議會、無産青年同盟、大衆教育同盟、水平社無産者同盟の参加を拒絶し、門戸を閉鎖して來たが、これに對し農民組合は門戸開放を主張し、内部に左右兩翼及中間派の對立が激成し、大正十五年十月二十四日第四回中央委員會に於いて、總同盟、官業並に總聯合、自治會、司厨同盟、製陶同盟は相次いで脱退し黨は評議會、青年同盟、水平社無産者同盟及自治會有志等の参加を得て、新たに中央執行委員長に大山郁夫書記長に

三七〇

網迫登光を選出し、分裂後後して新たに結黨した社會民衆黨、日本労働黨と對立し乍ら、當時の左翼政治戦線を形成して活潑な闘争を開始した。同黨は議會解散請願運動、政治的自由獲得闘争、及昭和二年の府縣會選舉戦、同年の國會總選舉戦等に勇敢に闘争し、かゝる闘争によつて漸次日本×××の指導の下に屬し、昭和三年の總選舉には「労働者農民政府の樹立」を中心スローガンに掲げて闘争し、同黨の内部には×××の中央フラクシオンビュローが置かれてゐたといふ。昭和三年三月十五日日本共産黨の大檢舉に際し、同黨の幹部並に中心分子が多數に檢舉され、昭和三年四月十日「日本共産黨との間に一脈の血が通へるものなり」との理由で解散を命ぜられた。其後直ちに新黨準備會(其項参照)を組織し、三度結黨を企てたが、新黨準備會は昭和三年十二月結黨禁止及解散を命ぜられたので政治的自由

獲得労働同盟として活潑に闘争を續けて來たが、昭和四年八月大山氏等は新黨労働黨組織を提唱し、これに對し革命的労働者は猛烈に反對したが同年十一月労働黨として結成された。(労働黨の項参照)

労働プロレタリア (ロードローモント)
改良主義者、ダラ幹等は労働者のストライキに際し、争議團の代表又は幹部の地位にあるのを利用して、會社(雇主)に争議を賣付け、私腹を肥やし、労働者の闘争を抑壓してゐる。かゝる奴を労働プロレタリアといふ。労働者の最悪の敵である。

労働保險 (ロードローモント)
社會保險とも言ひ、労働者の生活に於ける不時の經濟的打撃——傷害、疾病、失業等の場合一定の手當等を支給し、生活を保證するための保險制度である。資本主義の下では、資本家政府が労働者を僞關し懐柔するために社會政策として國家が強制的に勞

働保險を實施し、保險金は労働者、資本家、及政府が分擔し、且つ資本家が管理し、終局には労働者が負擔するようになった。我が國の健康保險法も此の一種でかゝる保險制度に對して労働者は資本家政府の全額負擔を要求しなければならぬ。尙、歴史的にはビスマルクが社會主義運動に對抗しこれを去勢し抑壓することを目的として實施した労働保險が有名である。

労働法 (ロードローモント)
「労働立法」のこと。其項を見よ。

労働問題 (ロードローモント)
労働者の労働條件の劣悪化に對する闘争はプロレタリアの死活問題で階級闘争の激化は歴史的必然性に基づく問題であるが、資本家にとつても亦抛擲し得ざる利害問題である。そこで資本家は、これを労働問題と呼んで一時的に瀰縫し、労働者を合理的に

擄取し抑壓することに腐心してゐる。しかし、労働者にとつては、「労働問題」とは階級闘争の遂行の問題、資本主義の××と××主義の建設に關する労働者の解放の問題を意味する。

労働立法 (ロードリツポイ)

労働法制又は労働法とも呼び、労働者の生産及生活に於ける種々の障害を廢除し生活を向上せしむるための法律の制定實施を労働立法といふ。しかし、資本主義の下で政府は決して労働者の利益を計るために行ふのでなく、労働者は力を以つて獲得せねばならぬ。普通労働立法と言はるべきものは、労働保險法、工場法、續業法、労働者災害扶助法、最低賃銀法、失業手当法、最低年齢法、母性保護法、深夜業禁止法、七時間労働法、及労働組合法、團體協約法等種種ある。しかしこれ等は凡て、資本家階級の根本利害に反しない範圍に於いて労働者の局部的利

益に讓歩し全體的に労働者を偽瞞し擄取と支配を強め闘争を抑壓する手段であつて、資本家・政府は斯る労働立法を制定すると共に争議・調停法、治安維持法、治安警察法、其他の抑壓法令を制定實施してゐる。眞に労働者の利益を保護する法律の制定は、資本主義を××し労働者が權力を掌握するに非ざれば不可能で、労働者はその目的實現の一過程として政府の制定する労働立法に反對し自己の要求に基づく労働立法の制定を要求して戦ふのである。

労働革命 (ローノーククメイ)

普通、一九一七年十一月のロシア・プロレタリア革命を労働革命といふ。しかし、其の階級的性質はプロレタリア革命を意味する。(十一月革命及プロレタリア革命を見よ)

労働政府 (ローノークセイフ)

労働者・農民政府の略稱。(其項を見よ)。尙、普

通ロシアのソビエツト政府のことを労働政府とも言ふ。

労働同盟 (ローノードローメイ)

政治的自由獲得労働同盟の略稱。「新黨準備會」の項を見よ。

労働の同盟 (ローノードローメイ)

「労働者農民の同盟」の略稱。(其項を見よ)

労働會議 (ローノークカイギ)

一九二九年夏頃より、日本に於ける労働者農民の同盟の一形態として戦はれたカンパニアでソビエツトの萌芽である。當面の具體的問題(政治的、經濟的)に關して、労働者(工場)の代表及農民の代表が地方的又は地域的に會議を持ち、共通のスローガンによつて労働者農民を動員し、大衆闘争を遂行し實際闘争の過程からソビエツトを學び取らしめてゐた。労働會議運動に於いても亦、其他の運動に於け

ると同様、プロレタリアのヘゲモニーが確保されねばならぬ。

労働協同會 (ローノークキョウカイ)

在來、印度等の國では××黨の指導の下に労働政黨が存在し、これ等の闘争をも労働者農民の××的同盟の一形態として來たが、一九二八年コミンタンは在來のこの方針を批判し、労働政黨は速かに労働者農民協同會に改めねばならぬことを指摘した。労働協同會は單に労働會議のカンパニアではなく、員組織を意味するもので、定期大會と諸委員會、格等を持ち、組織の構成は各工場労働者の代表(各職場、委員會の代表等)、農民の代表(各種自主的委員會)と、労働組合、農民組合等の各労働團體の代表を以つて構成し、組織は中央から工場、農村の末端まで生産點を基礎とし、労働者及農民大衆の利益を忠實に且つ廣範に代表し、更にプロレタリアのハ

ゲモニーを闘争に於いても組織内の構成の比率に於いても確保しようとする組織にして、「労働者、農民の同盟」の一形態である。

日本では昭和三年四月十日の労働農民黨の解散後急速に労働協議會、或は労働團體協議會の運動が資本家、地主の政府の暴壓に對する闘争の中から生れ一九三〇年の選挙戦には日本労働組合全國協議會を中心として労働團體協議會の形で選挙闘争同盟を組織して闘争した。

労働黨 (ローノート)

舊労働農民黨は解散を命ぜられた後、新黨準備會(これも解散を命ぜられた)及政治的自由獲得労働同盟として暴壓に抗し勇敢に闘争を續けて來たが、昭和四年八月大山、細迫、上村氏によつて合法左翼政黨として新労働黨の提唱がなされ、これに對し「労働同盟」及協議會其他の革命的労働者は「合法政黨

絶対反対、×××を守れ」のスローガンを掲げて反對したが、併し同年十一月一日労働黨は結黨した。當時の支持團體は全國農民組合及東京交通労働組合の三分一の勢力及大阪、神戸方面の舊評議會所屬組合である。同黨の綱領は次の如くである。(一)我が黨は労働者農民、無産市民、其他一切の被壓迫民衆の日常利益の擁護と、伸張のために戦ふ、(二)我が黨は労働組合、農民組合の擴大強化を重要な任務とす、(三)我が黨は無産階級の戦線の統一を期す、(四)我が黨は全被壓迫民衆の政治的自由獲得のため

次の如し。

(一)過去五ヶ年間の社會主義經濟の各部門の總投資額は二百五十五億留であつたが、一九二八・九一九三二・三年度迄には六百四十六億留を投資する。其の結果ソビエツト聯邦の經濟的基礎資金は二七・八年現在約七百億留から來五ヶ年度には千二百八十億留に達し、従つて農工業生産額は在來の年額二百四十四億留から四百九十七億留に増大する。

(二)經濟力を強大化し且資本主義諸國の壓迫から解放するため、工業方面の投資は、生産手段を生産する重工業に重點を置き、其結果五ヶ年間の工業投資額百六十四億留のうち七八%は重工業に投資する。又、銑鐵の生産額は一千萬噸を生産する計劃で、世界の三位(ドイツ・アメリカに次ぐ)に達し、石炭(生産額七千五百萬噸の産出)は世界の五位から第四位(米・獨・英に次ぐ)に進むことになる。

烈に外部から闘争を開始し、労働會議の運動を強調し全く分離し對立するに至り、労働黨粉碎のために闘つてきた。尙、労働黨役員は中央執行委員長大山、書記長細迫、外中央委員三十一名で、昭和五年十月解消派の細迫、河上、神道、上村氏等を除名し××的大衆を失ひ黨は全く無力化した。

労働ロシア (ローノール)

ソビエツト社會主義共和國聯邦の俗稱。

労働ロシアの教育 (ローノールロシアノキョーイタク)

「ソビエツト・ロシアの教育」を見よ。

労働ロシアの五ヶ年計劃 (ゴカネンケイカク)

全聯邦共産黨第十五回大會の決議に基きソビエツト・聯邦では一九二八・九年—一九三二・三年度迄の經濟發展五ヶ年計劃を實施し、共産主義經濟の建設に最大の努力を傾注し、第一年度において既に豫定以上の好成績を収めてゐる。五ヶ年計劃の骨子は

(三)五ヶ年計劃實施の結果、資本主義的私諸事業は四七・三%から三一・一%に減少し、社會主義工業は八〇%から九二%に、社會主義農業(集團農業)は二%から一七・五%に増進する。又國民總收入總額は二百四十四億留から四百九十七億留に躍進し、ソビエツト國家の總豫算額は過去五ヶ年間を通算して計百九十億留であつたのが、合計五百十億留に達する。

五ヶ年計劃の實現は、ソビエツト聯邦の經濟力を三倍にし且つ工業における社會主義經濟の急速な發展により資本主義經濟の殘存を一掃し、並に農業の社會主義經營によつて富農を掃滅し、農民をプロレタリア化し、以つてプロレタリア獨裁の經濟的政治的基礎を強固にするにある。五ヶ年計劃の着々たる成功は資本主義諸國の脅威と羨望の的であるが、全世界のプロレタリアートには勝利と希望と確信を深

めしめ、而も四ヶ年間に完成しうる程である。

ロックアウト

工場閉鎖、又は掃出しと譯す。労働者のストライキ、サボタージュなどに對し資本家が敵對的にとる手段の一つで、工場の作業を休止し工場の門を閉めて労働者を工場から一時的に掃出すことである。資本家は労働者が工場内で團體的行動を執ることを妨げ、ロックアウトを行つて争議團の切り崩しを行つたりなどする。これに對して労働者は資本家の掃出しに頓着せずどしどし工場に入り、職場を占領して闘争をやつてゐる。

ロマンチズム

浪漫主義と譯す。ロマンチズムの根本特徴は感性上主觀主義であつて、非社會的の個性の自由、理想、感情、感覺を重んじ同じ觀念論に對しても法則整備、形態、傳統、對一主義等の理性に基づくもの

に反對する。ロマンチズムは十九世紀初頭獨逸を中心に文藝上の反古典主義運動として表はれ、斯かる人生觀、文藝觀、世界觀を意味するようになつた之は新興ブルジョアジの初期の文藝的表現で新大陸の發見、貿易、航海等の冒險及自然科學の發達等により色々な世界の空想と冒險等を新取的に表徴したもので、シュレーゲル兄弟、シュライエルマツハ、シュリング、ヘルデルリンなどを始め、シレー、バイロン、カールライル、ユーゴー等は此の派の代表的人物であつた。資本主義の發展と共にロマンチズムはモダーニズムやナンセンス文學等資本主義の極端な爛熟と頹廢を意味する生活様式、人生觀、文藝等に地位を奪はれ、最悪の要素を残してロマンチズムと言へば現實性のない甘い幻想、空想を意味するようになつた。又プロレタリアの側に於いても、小説中の革命家の活躍や、偉大な役割と冒險等をあ

こがれて、自分を革命小説の主人公のように考へ現實の闘争等を見無視して、運動の中に飛び込んで來る者をロマンチストと言ふ。

論理學 (ロソリガク)

思考の形式を大系的に論ずるのが論理學である。即ち概念、判斷、推理の形式を一般的に、抽象的に規定し(これを彼等は原理といふ)これに基いて更に眞偽の探究、證明等を行ふ。(これを方法論と呼ぶ)在來論理學とはかゝる思考の形式の學を意味し、これを形式論理學とも呼び、大別して演繹論理學、歸納論理學の二つの形式上の區別がある。論理學の起源はアリストテレスが「推論の方法」を論じ、範疇を立てたりしたに始まり、ロック、カント、ヘーゲル等も夫々論じてゐる。尙唯物辯證法は學問研究の方法を含んでゐるが、斯かる觀念的な形式論理とは根本的に異つてゐる。

【ワ】

ワイ・シー・アイ (Y. C. I 英)

青年共産インターナショナルの頭字による略稱。

和解調停制度 (ワカイチョーテイセイド)

労働争議、小作争議、借家争議等の場合争議調停法に基づいて、強制調停、強制和解等、法律裁判によらず、官憲が調停者といふ名目で當事者及政府の代表者等が會合し、妥協點を發見させ、當事者相互の協定によつて争議を解決することを指す。社會民主主義者、ダラ幹等は労働者農民の闘争を抑止し、敵に賣り渡すために官憲とダラになつて盛んに和解仲裁によつて争議を解決しようとしてゐる。最近における總同盟の西尾等による鐘紡争議の破壊等はこれに依るものである。

ワシントン會議 (——カイギ)

「軍縮會議」の項を見よ。

ワン・ビッグ・ユニオン主義 (——シュギ)

一大労働組合主義と譯す。労働組合を強大にし、産業別労働組合の全國的總聯合に組合を集中統一し又は地方的組合を全部單一の統一組織の下に結合することは労働者階級の最も重要なことで常に努力しなければならぬことであるが、これはワン・ビッグ・ユニオン主義ではなく統一戦線の組織問題である。ワンビッグ・ユニオン主義といふのはI. W. W. の主張であつて、全世界の労働者を單一の組合に結合し經濟的闘争によつて労働者の解放を達成しようといふサンヂカリズムの主張であり、其の結果、共産黨を否定し、又は政治的中立を唱え政治的闘争より經濟闘争の方が重要であるといふのであつて全く反動的主張である。

附 錄 人 名 辭 典

【ア】

アクセロイド (ポール) 一八五〇年生。

ロシアの社会民主主義者で、一八八三年ブレハーノフ、ザスリツチと「労働者解放闘」を組織し、一九〇一年レーニン等と共に「イスクラ」の編輯同人となつたが、一九〇三年社会民主黨の分裂と共にメンセビイキに走り、一九〇五年以来社会民主黨の解散を力説した解黨派の代表人物である。其後外國にあつて共産黨の反對に浮き身をやつしてゐた。

アヴェリング (エドワード)

英國のマルクス主義學者で無神論者。マルクスの娘エレナと結婚し、ニュー・カレッジの化學教授をしてゐた。一八九四年歿。

アヴェナリウス (リヒアルト)

ドイツの哲學者で、經驗批判論の創始者。一八四

(ア)

三年パリに生れ、一八七三年チューリヒ大學哲學教授となる。著書「純粹經驗の批判」「人間の世界概念」があり、レーニンの痛烈な批判の對象となつた。

アドラー (フリードリヒ) Friedrich Adler.

オースタリーの共産主義者で後社会民主主義者となる。一八七九年フィクトル。アドラーの息として生れ、機關紙の編輯人、黨書記に任ぜられ、一九一六年十月首相シュチュルクを狙撃したため死刑を宣告されたが恩赦によつて十八年の禁錮に處せらる、當時アドラー(子)は共産主義者でレーニンは第三インターナショナルの未來の建設者として囑望してゐた。アドラーはオースタリー革命によつて出獄し出獄後は共産黨に宣戦を布告し、社会民主黨に復歸して第二インターナショナルを作り、其の委員長となつた。著書「マツハ主義と唯物史觀」。

(ア・ウ)

アドラー (マクス)

オースタリーの社会民主主義者でウィーン大学の社会学講師。一八七三年に生る。彼はマルクス主義を哲学的にカントに結びつけることに依つて歪めてゐる。著書は「マルクス主義の諸問題」、「マルクス國家観」、「カントの認識論に於ける社会的なもの」、「思想家としてのマルクス及エンゲルス」、「カントとマルクス主義」等があり、各國の大学社会主義者によつて唱和されてゐる。また彼はヒルフアードイングと共に「マルクス研究」を發刊してゐる。

アリストテレス Aristotleles.

紀元前三八四年に生れたギリシヤの大哲學者。プラトーンの弟子で、哲學、數學、物理学、神學の父と言はれ、其の著作の主なるものは論理学(オルガノン)、倫理学(ニコマコス)、修辭學、詩學、數學、物理学、及形而上學に關する者多く、又、彼はプラト

三八二

ーンの財産の共有主義に反對し、私有財産制を哲學的に主張した。

アルマリーヌ (ジャン) Jean Allmane.

フランスの共產主義者。一八四三年に生る。植字工で組合運動に貢献し、一八七一年に逮捕され八年の禁錮に處せらる。「黨綱領」、「フランス社会主義」の著作がある。

【ウ】

ウイルブランド (ロバート) Robert Wilbrandt.

現チューリッゲン大学経済學教授。マルクス主義經濟學を理想主義の下に歪めることに専心してゐる著書「經濟」、「國民經濟學研究」等がある。

ウエツプ (シドニー) Sidney Webb.

イギリスのフェビアン社会民主主義者で労働黨内閣員。一八五八年ロンドンに生れ、ロンドン大学を

出て辯護士となり、一八七八年官吏となつて陸軍省稅務局、植民省に歴任す。一八八五年フェビアン協會に加里、一八九二年労働黨の市會議員に當選し、以後十八年間市政に參與し、一九二二年同黨代議士候補に立ち、當選した。二四年マクドナルド内閣成るや商務大臣となり、二九年の第二次労働黨内閣には植民大臣となつた。著書の主なるものは「労働組合運動史」、「産業民主主義」、「大英國社会主義國家の構成」、「消費組合運動」、「資本主義文明の凋落」等。

ウエルズ (ハーバート・ジョージ)

英國の小説家で、空想的社会民主主義者。一八六六年に生れた。著作「宇宙戰」、「豫見」、「現代の理想郷」、「最初と最後」、「戰爭と將來」、「歴史の概要」、「ロシア」、「世界史」、「夢」等の架空小説、寫實小説及評論がある。

ヴァンダーヴェルト (エミール)

(ウ)

ベルギーの社会愛國主義者。一八六六年に生る。一八九四年社会民主主義國の委員長及下院議員となり、第二インターナショナル事務局員として活動し世界大戰の勃發と共に、眞先に愛國主義者となり、一九二〇年司法大臣となつた。「社会主義と進化論」、「戰後の問題」等の著作がある。

ヴォロシロフ (グリメンティ・エフレモヴィチ)

全聯邦共產黨中央委員及政治部員ソビエト聯邦陸海軍人民委員長、同革命軍事會議長。一八八一年生。六歳で鑛山労働者となり十五歳の時レンニングラードに於て旋盤工として革命運動に参加す。一九〇四年ボルシェヴィキ中央委員に選舉され、其後一九一七年迄に七回逮捕投獄さる。三月革命及十一月革命には大に奮闘し、革命後一九二一年以來全聯邦共產黨中央委員に選任され一九二五年に更に現地位に選任さる。尙彼は黨組織問題に詳しい。

三八三

(ウ・ユ)

ヴァルガ (オイゲン)

ハンガリー共産主義者。ハンガリー革命後ロシアに亡命し、第三インターナショナルで働いてゐた。世界経済並に農民問題に對して造詣深きマルクス主義經濟學者である。「歐洲資本主義の危機」「農業問題」等の著書があり「コミンタンの世界經濟年表」はヴァルガの編輯に負ふてゐる。

[H]

エーベルト (フリードリヒ)

ドイツ社會民主黨員。一八六一生—一九二五歿。洋服屋の子として生れ、馬具師の弟子となり、後新聞記者となり、一九〇五年社會民主黨の中央執行委員となる。一九一〇年議員となりシャイデマンと共に右翼の親方となり、歐洲大戦には愛國者として立ち現はれた。一九一七年聯立内閣に入り、一九一八

三八四

年のドイツ革命に際してはシャイデマン首相となつてランズベルグ、ノスケ等と假政府を作り、プロレタリア革命を弾壓し、ズバルダカス團の逮捕、リプクネヒト、ローザの撲殺等白色テロルを行つた。プロレタリアの最大の裏切者で一九一九年社會民主黨からドイツ共和國大頭領に當選した。

エカリエウス (ヨハン・ゲオルグ)

獨逸の共産主義者。一八一八年に生る。ロンドンに赴きマルクスに師事し、第一インターナショナル機關紙「コモソウエルス」の主筆であつた。

エリオ (エドゥアール)

フランス社會民主主義者で政治家。一八七七年生。大學教授、市長、上院議員を経て、ブルジョア左翼政府の閣員となり、歐洲大戦前左翼社會黨の首領となり、一九二二年ソビエトロシアを訪問し「新ロシア」を著し、一九二四年左翼社會黨の聯立内閣を

組織し、首相となつた。

エンゲルス (フリードリヒ)

共産主義の創設者の一人。一八二〇生—一八九五歿。マルクスの生誕に運ぶること約二ヶ年、富裕な製造業者の息として生る。中學校、高等學校(中途退學)を経て、一八四一年近衛砲兵隊に入り兵學に通じた。其後父のエルメン・エンゲルスの共同紡績工場の代理人として英國マンチェスター市に赴いた。渡英の途次はじめてマルクスと相識るに至り、渡英後チャーチストや労働組合運動に關係し、資本主義生産の内部を追究した。これが「一八四四年に於ける英國労働階級の状態」(一八四五)の著作の基礎となつたのである。一八四四年パリにマルクスを訪問し、マルクスに學ぶところあり、世界觀、經濟學批判、政治理論(プロレタリア×論)等に完全なる意見の一致を見、一八四五年には商業を廢し、

(ウ)

「獨佛年誌」に寄稿したり、「神聖家族」をマルクスと共著して相協力して來た。一八四七年ロンドンに赴き共産主義者同盟に参加し、綱領「共産黨宣言」をマルクスと共に起草した。一八四九年のドイツ革命運動等に身を投じ、翌年再びマンチェスターに歸り商業に従事し乍ら、マルクスの事業を助け協力した。マルクスが資本論其他の大作を完成するに當つて、エンゲルスの經濟的援助があづかつて力あつたと言はれてゐる。一八七〇年十一月ロンドンに移りマルクスの死に到る迄協力し、一八八三年マルクスが死するや、「資本論」第二卷、第三卷を編輯し、マルクスの著作の編纂完成に努力した。斯くの如くエンゲルスは共産主義の偉大な建設者として最後迄マルクスと協力し、第一インターナショナル其他で活動し一八九五年八月六日七十五歳を以つて歿した。著書は上述の外「空想から科學への社會主義の發展」

三八五

(エ・オ)

(一八九一)、「家族私有財産及國家の起源」(一八八四)、「反デューリング論」(一八九四)、「フオイエルバツハ論」(一八九五)等が著名である。

【オ】

オーウエン (ロバート) (一七七一一一八五八)

英國の空想的社會主義の唱導者、紡績工場主となつたが、労働者の悲惨な状態に同情し、ニューラナークの工場は彼の見學所となり、漸次空想的社會主義に移り、一八一七年には議會の貧民法委員會に社會改良法案を提出し、一八二五年には北米インディアナに「ニュー・ハーモニー」なる共產村落を経営し共產社會の理想を實現せんとしたが失敗し、晩年は社會主義を捨てた。彼は空想的社會主義の實驗の鼻祖で「新社會觀」「新道德世界」「自叙傳」等の著がある。

三八六

汪兆銘 (オー・チヨイメイ) 一八八五生

支那「國民黨」左翼派の首領でXの小平ブルジョアの利益の代表者。一九二七年迄は支那共產黨と提携して来たが、武漢及廣東ソビエトを裏切り、且つ蔣介石打倒、共產黨打倒のために軍閥と提携して民主的支那共和國實現のために、狂奔してゐる。

オシンスキー (ワシリヤン・ワレリアノウイチ)

ロシア共產黨員。一八八五年生。一九一二年ボルセヴィキ機關紙の編輯に携はり、流刑に處せられ、一九一七年モスコに歸り黨のモスコ・ビュロー委員となり、十一月革命の成功のために活動し、モスコソビエト宣言を起草す。十一月革命後最高經濟會議議長となつたが、ブレスト・リトフ條約に反對し、又トロツキー派として反對運動に携はつた。一九二五年中央統計局長に左選され現在に及ぶ。尙一九二七年ジネーブ國際經濟會議にはロシア代表

として派遣された。

オルジヨニキズゼ (グリゴリー・コンスタンチノウイチ)

一八八六年生。一九〇四年ボルセボイキ派に加はり、革命運動によつて度々投獄流刑され、一九一〇年巴里に於てレーニンと共に活動し、一九一二年スターリンと共にロシアに歸り、又々投獄され、一九一七年六月レニングラードに歸り、十一月革命に貢獻し、一九二〇以來ロシア共產黨の中央委員。現在黨中央統制委員會議長、労働監督人民委員長、ソビエト聯邦人民委員會議長代理、労働及國防會議々長代理。

【カ】

カウツキー (カール) (一八五四生——)

獨逸社會民主黨の長老でマルクス主義の背教者。(オ・カ)

カシアン (マルセル) (一八六九年生——)

フランスの共產主義者。元中央黨及社會黨に屬したが、一八一八年黨機關紙「ユマニテ」の編輯者と

三八七

マルクス、エンゲルスの直弟子として正統派を以つて任じ、ベルンシュタイン等の修正派と戦つたが、彼自身マルクスから革命的的精神をぬき取り、議會主義を唱えてマルクス主義を曲めた。歐洲大戰には、「中立」の名によつて戦争を支持し、後戦費問題で社會黨から分裂し、獨立社會黨を組織し、且つロシアのプロレタリア獨裁に反對し、第二半インターナショナルに加はつたが、間もなく第二インターナショナルに復活し、共產黨排撃に浮身をやつしてゐる。著書はマルクスの「剩餘價值學說史」及資本論普及版の編輯の外「マルクス經濟學解説」「唯物史觀」等多くある。レーニンはカウツキーを「背教者」として常に批判の對象としてゐた。

なり、屢々投獄され、大戦後ロシアに入り、歸佛後一九二四年下院議員に再選さる。

片山潜 (カタヤマセン) 一八六〇生。

岡山縣生。日本に於ける明治時代の社會主義運動の開拓者で、一九〇四年日露戦争當時には、第二インターナショナル大會に出席し、反戦を主張した。大正三年日本を亡命し、アメリカに於いて革命運動に従事し、アメリカ共産黨の創立のために努力し、其後アメリカを亡命してロシアに入り、第三インターナショナルの執行委員として世界メキのために活動すると共に、日本のプロレタリアートを指導してゐる。

カツプ

獨逸反革命家。一九二〇年所謂カツプ反亂によつてベルリンを占領し、カイゼル派の反動政府を樹てたが四日にして労働者の爲に倒された。

カペー (エチアン) 一七八八生—一八五五歿。

フランスの空想的社會主義者。トマス・モアの共産主義的「理想」郷を實現せんとし、幾度かアメリカに植民したが失敗し、一八四二年に「イカリア航海記」を著し共産社會の理想を小説の中に説いたので有名。

カーペンター (エドワード) (一八四四年生—)

イギリスの藝術的社會主義者。ケンブリッジ大學講師となり、一八八三年社會主義運動に加はり、一八八四年にホイットマンを訪れた。著書「民主主義」「文明」「英國の理想」等。(一九三〇年死)

カーメネフ (レフ・ボリソウイチ) (一八八三年生)

ロシア共産黨の舊指導者で右翼派として除名さる。一九〇四年ボルセビキに加はり、度々投獄され、第一次革命にはレニングラードで活動し、一九〇八年又々逮捕されたが流刑地から亡命し、巴里會議に

参加し、レーニン、ジノビエフ等と共に「プロレタリア」ソチイアルデモクラット」を編輯し、又黨中央委員會の決定で、「ブラウダ」の編輯同人ともなつた。一九一三年ロシアに歸還を命ぜられ、一九一四年逮捕され流刑となつたが、三月革命後レニングラードに歸りボルセビキの中央委員及ソビエツトの幹部となる。十一月革命後黨中央委員會政治部員、人民委員會議長代理、労働及防衛委員會議長、内外商業人民委員會議長となつたが一九二六年以來トロツキー等と新反對派の領袖となり、罷免され、伊太利大使に左遷され、其後黨籍をも除かれるに至つたが一九二九年黨籍だけは復活した。

カラハン (レフ・ミハロウイチ) (一八八九生—)

一九〇四年ボルセビキに入り以來革命運動に参加し歐洲大戦中ボルセビキ國際委員となり、其間度々投獄流刑に處せらる。一九一七年夏全露ソビ

エツト中央執行委員となり十一月革命には革命委員會委員となつて活動し、プレスト平和會議には全權として出席し、一九一八年外務人民委員會議長代理となり、其後ポーランド公使となり、一九二四年には支那公使となり對支及日露協定に盡力し、一九二六年北京を去り、モスコに歸還し現に外務人民委員會議長代理として、専ら東洋方面の事務を管掌してゐる。

カリニン (ミハイル・イワノウイチ) (一八七五生)

農民の子として生れたが一八九八年ボルセビキに加り、レーニン等と共に活動したが度々逮捕され一九〇五年に釋放され、其後四年程レーニングラード金屬組合工で活動し、以後にも數回投獄されたが三月革命で釋放され、十一月革命には非常に貢献した。一九一九年共産黨中央委員に選出され、一九二三年ソビエツト共和國聯邦の中央執行委員會議長に

(カ)

選舉さる。現在、ソビエツト聯邦及ロシア共和国中央執行委員會議長、全聯邦共產黨中央委員及政治部員。

カント (イマームエル) (一七二四生—一八〇四歿)

ドイツが生んだ大哲學者で、觀念的ブルジョア哲學を大成した。「純粹理性批判」と「實踐理性批判」は彼の哲學の原理及倫理を書いたもので、其他「プロレゴメナ」「判斷力批判」等の著があり、今日各國の大學の哲學講座は殆んど彼れの哲學の流れを汲むものである。

ガボン

ロシアのツアリの信侶であつたが、ドイツと通謀し又革命信として、一九〇五年ベトログラードの労働民衆が平和とパンを要求して冬宮に迫つた時、彼は十字架を手にして先頭に加はつた。これをガボン騷擾とも言ふ。

三九〇

ガンヂー (モハンダス・カラムチャンド) (一八六九生—)

印度獨立運動家。彼は印度の州大臣の子として生れ、英國に渡り辯護士となつて歸國し、一八九三年以來非暴力をモットーとし印度の自由・平等・獨立を叫び、其後歐洲大戰が始まるや英國を支持して印度民衆を裏切つた。戦後再び獨立運動に加はり半宗教的信仰を以つて民衆を操り指導者となりすましたが一九二二年逮捕され、六年の禁錮に處せられ、出獄後非暴力、不服従をモットーとしネル等と共に、印度國民會議を中心として獨立運動を合法的改良主義的に行つてゐる。彼は又共產黨に反對し、印度革命を阻害してゐるが、一九三〇年再び印度の英政府によつて逮捕された。

【キ】

キングスレー (一八一九—一八七五)

英國キリスト教社會主義の創始者で、労働階級の衛生、道德(?)、救貧事業に従事し、労働者の革命化を阻止して來た。又、日本の初期社會運動の發生した神田のキングスレー館は此の派の傳導所でもつた。

キヤンベル (一八九四年生—)

英國共產黨幹部でキヤンベル事件として有名。彼が兵士に對する公開狀は次の如し、「英國共產黨は諸君に訴へる。戦争や階級戦に際し、諸君は出征を拒絶せよ、又斷じて罷工者の上に銃口を向けるな諸君の××は資本主義及搾取者の上に註がねばならぬ云々。」

(キ・ク)

【ク】

クイブシエフ (ワシリアン・ウラヂミロウイチ) (一八八八生—)

ソビエツト聯邦最高經濟會議々長、全聯邦共產黨中央委員及政治部員。一九〇六年十八歳にしてボルセビイキに加はり、度々檢擧投獄され、三月革命で解放され、一九二二年共產黨書記局に入り翌二三年及二六年に現職に就く。

クスネツオフ (ステパン・マトウエウイチ)

一八九一年生。一九一五年ボルセビイキに加盟、三月革命、十一月革命に貢献し、一九二三年ソビエツト中央執行委員となり二六年聯邦財政人民委員長代理となる。

クトウゾフ (イワン・イウノウイチ) (一八八八生—)

ロシア労働運動に貢献し、又ボルセビイキに加盟

三九一

(ク)

し、織維労働者間で革命的労働運動に従事し一九二〇年共産黨大會で中央委員となり第六回全露労働組合大會で全露労働組合中央評議會幹部に選ばれる。一九二四年英露組合會議代表として派遣された事もある。

クツク (アーサー・ジエームス) (一八八四生—)

英國の礦夫労働組合の指導者。マアジイ坑夫組合議長等を経て、一九二一年英國坑夫聯合會の執行委員となり、「三角同盟」及炭坑ストライキを指導し、又英露組合會議には英國代表として入露し、歸國後共産主義者となつた。

クノー (ハインリッヒ) (一八六二生—)

ドイツ社會民主黨の理論的指導者でマルクス主義の歪曲者。黨機關紙「前進」の編輯者としてマルクス主義の正統と自任し、共産黨を排撃し、愛國主義と改良主義を唱えてドイツブルジョアの代辨をやつ

三九二

てゐる。著書「インカ帝國の社會概」「結婚及家族の起源」「マルクスの歴史、社會、國家學說」等。

クループスカヤ女史 (ナデジダ・コンスタンチノウナ)

一八六九年生。レーニン未亡人、全聯邦共産黨中央統制委員、教育人民部參與、政治教育部長、ソビエト聯邦中央執行委員。一八九〇年以來ロシア革命運動に従事し、一八九八年社會民主黨(ボルセビキ)に加盟したが、七ヶ月間投獄され流刑三年。亡命九ケ年に及びレーニンの妻として協力し、ボルセビキの機關紙の編輯に携はつてゐた。十一月革命後現地位に就き、一九二五年ジノビエフ、カールメフ等の新反對派に加はつたことがあつたが間もなく誤謬を清算した。

クロボトキン (ピーター・アレクセーウイチ) (一八四二生—一九一九歿)

無政府主義者。ロシアの貴族として生れ、軍隊を

入り其の間地質學を實地に研究し、後軍隊を廢して自然科学の研究者となつた。一八七二年ベルギーを訪ね、バクレーンと會見し、熱心な無政府主義者となり其後歸國して秘密集會等を開ひて宣傳してゐたがロシアを追はれ、スイス、英國等で無政府主義運動を續け、又、「反逆人」「自由」等の機關紙を發刊してゐた。ロシア革命後に歸國したが、何事もなし得ず、只反革命的著作を續け乍ら農村で死んだ。著書「田園、工場、仕事場」「無政府主義の科學的基礎」「青年に訴ふ」「相互扶助論」「倫理學」「パンの掠取」「革命家の手記」等がある。

【ケ】

ケレンスキー (アー・エフ) (一八八一生—)

彼は社會愛國主義者で、ロシア社會革命黨の首領としてロシアブルジョアの利益を代表し、一九一七

(ク・ケ)

年の三月革命後臨時内閣を組織し、歐洲大戰に再びロシアを參加せしめようとしたが十一月革命によつて政府は顛覆し彼は國外に逃亡した。目下フランスにあつて反ボルセビキ的策動を續けてゐる。

ケノー (フランソア) (一六九四生—一七七四歿)

フランスの經濟學者で、重農學派の創始者。其著「經濟表」は重農學派の文献として名高い。(重農學派の項参照)

ゲード (ジュール・ベジール) (一八四五生—一九二一歿)

彼はフランスに於ける最初のマルクス主義者であつたが、第二インターナショナルの創始者の一人となり、歐洲大戰には愛國者となつて立ち現はれ、一九一九年にはフランスブルジョア内閣の大臣となりプロレタリアの公然の敵として現はれた。

三九三

【C】

森徳秋水

土佐の生。日本初期社会主義運動の開拓者として平民新聞等によつて非戦論を唱えてゐたが、明治三十八年渡米し、歸國以來無政府主義者となつて宣傳に従事してゐた。明治四十三年大逆事件の首領として同志十二名と共に死刑に處せらる。著書「社会主義眞髓」「基督教抹殺論」等がある。

コール (ジョージ・ダグラス・ホワイト)

一八八九年生れ。牛津大学の教授で、英國のギルド社会主義者(ギルドの項を見よ)。著書「産業自治論」「ギルド社会主義論」「英國労働運動小史」「社会理論」等。

コロンタイ女史 (アレクサンドラ・ミハイロウイナ)

全聯邦共産黨員。一八七二年生。チヌーリツヒ大

は大飢饉の救済事業のため國外で活動し、一九二八年歸國以來ソビエツト政府の教育文藝方面に多大の援助をなした。ある。創作「どん底」「仲間」「母」「三人」「別荘の人々」「野蠻人」「太陽の子」等々がある。

ゴドウイン (ウイリアム)

一七五六生—一八三六没 イギリスの無政府主義者。彼は正義の觀念によつて「寛容と互譲」の無政府社会を實現せんと夢見たが、晩年は大藏省の門番となつて死んだ。著書「政治的正義と其の道德及幸福に及ぼす影響」がある。

ゴムパリス (サミュエル)

一八五〇生—一九二五没) アメリカの反動的労働運動家。英國に生れたが渡米し、アメリカ労働組合聯合會長となり、勞資協調を高唱して共産主義及國際的労働運動を排撃し、アメリカ・ブルジョアジの番頭となつてゐた。

學に學び、一八九四年頃ロシア社会民主黨に加はりポロニノ黨學校で婦人労働者問題の講義を擔當し、メンセビイキと行動を共にしたが一九一七年ボルセビイキに参加し、一九一七年七月ケレンスキー政府に逮捕さる。共産黨第六回大會で中央委員に選ばれ同二十二年迄は共産黨中央委員會婦人部長、コミンテルン婦人書記局長となつたが、二三年ソビエツト聯邦のノルウェイ公使に二六年現メキシコ公使に任ぜらる。又、一九二〇年頃シリヤブニコフ等と共に「労働者反對派」の急先鋒となつたこともある。彼女の革命小説「赤い戀」等は日本にも翻譯されてゐる。

ゴリキイ (マキシム) (一八六八生)

ロシアの共産主義藝術家で本名はアレクセイ・マクシモウキツチ・ベツシユーフ。一九〇五年來革命運動に参加し、投獄、亡命等を経て、十一月革命後

【サ】

サン・シモン (一七六〇生—一八二五没)

オーエン、フリーリエーと共に空想的社会主義の開祖である。伯爵の家に生れ、フランス革命にも加はつたことがある。著書「産業論」「産業問答」「新キリスト主義」等がある。

ザスーリツチ女史 (ヴェラ・ニコラエヴナ) 一八五一年—一九一九没。

ロシアのメンセビイキ派の婦人革命家。一八七八年警視總監を射撃し、一八八〇年外國へ亡命し、ブレハーノフと共に「労働解放團」を組織してゐた。

サンガー夫人 (マーガレット)

アメリカの産兒制限運動家。一八八三年生。著書「女子の心得べきこと」「母の心得べきこと」「産兒制限に関する事情」「婦人、不徳義、産兒制限」

(シ)

「婦人と新種族」「文明の樞軸」「新しい母性」等。

【シ】

クナイデマン (フライリッパ) 一八六三生。

獨逸社會民主黨の舊首領。プロレタリアの最大の裏切者で、歐洲大戰に賛成したのみならず、一九一八年のカイゼル政府との聯立内閣に加はり君主制の維持に狂奔したが、革命の止み難きを見て、彼はエーベルト、ノスケ等とドイツ共和國を樹立し、彼は假政府の總理大臣となつてドイツ・プロレタリア革命を絞殺し、リープクネヒトヤルクセンブルグを虐殺した張本人である。一九一九年彼はヴェルサイユ條約に反對して桂冠した。

シャルル・ロンデー (一八三三生—一九〇三歿)

フランスの共產主義者。第一インターナショナルの創立に協力し、一八七一年のバリコンミューンを

と收穫し「産業共和國」「兩替屋」「正義の叫び」「スバイ」等がある。

ジノヴィエフ (グリコリー・エフセウイチ)

古くからのボルセヴィキでロシア革命の指導者の一人。一八八三年生。一九〇一年ロシア社會民主黨に加盟し、レニングラードを中心として活動し、一九〇七年黨中央委員となつたが逮捕され釋放後國外に亡命し、レーニンと共に黨の指導、機關紙の編輯等に當つてゐた。一九一七年四月レーニンと共に歸國し、十一月革命後レニングラードソビエツト議長革命軍事委員會委員、黨中央委員に任ぜられ、一九一九年第三インターナショナルの成立と共に同執行委員會議長となつた。然るに一九二五年來、經濟政策、對支政策、世界Xの評價等に關しスターリン等の幹部派と意見を異にし、カームネフ、ラデツク等と共にトロツキー一派との間に「新反對派」プロ

(シ)

三九六

指導したが失敗し、其後ロンドンに亡命し、大學教授となつた。彼はマルクスの娘エニを妻としてゐた。

ジユミツト (ワシリイ・ウラヂミロウイチン)

ソビエツト聯邦労働人民委員長、全聯邦労働組合中央評議會幹部。一九〇五年ボルセヴィキに入黨、三度投獄され、其の後金屬工組合で活動し、一九一八年現職に任ぜらる。

シリヤブニコフ (アー)

古いボルセヴィキで、三月及十一月革命等にレニングラードで活動し、十一月革命後労働人民委員長及ロシア共產黨中央委員であつたがコロンタイ等と共に労働者反對派の首領となり、一九二二年以來幹部を免ぜらる。

シンクレア (アプトン) 一八七四年生。

アメリカの社會民主主義者で小説家。著書に「春

ツクを形成し、黨の決議を無視したり、反革命的策動を行ふようになった。其の結果二六年にコミンテルン及黨中央委員ソビエツト幹部から除かれたが、引續き黨に反對して來たので一九二七年黨から除名されたが、十五回黨大會ではカームネフと共に服従を聲明し、黨への復歸が許されたといふ。又、彼は常に政治的行動に動搖が多く、一九一七年十月黨會議には武装蜂起による權力獲得に反對し、レーニンと論争したこともあつた。

ジユオー

フランスの社會愛國主義者で、シー・ジー・テイの幹事長。彼は反動的組合官僚として、政治的中立を唱えて共產黨に反對し、C.G.T.U.を除名分裂せしめ、最近ではエリオール一派の左翼社會黨を支持してゐる。

ジヨールス (ジャン・レオン)

三九七

(シ・ス)

フランスの社会主義者。一八五九年の生。彼は最初大學教授であつたが、後社会主義者となり、「ルニマニテ」を創刊し、ミラン等と行動を共にしてゐたが、一九一四年(歐洲大戦間際)に反動の手に暗殺された。著書「社会主義の歴史」「感覺界の實在性」「國民議會」等がある。

蔣介石 (シヨロカイセキ) 一八八三年生

支那國民黨幹部、國民革命軍總司令。支那ブルジョアジの利益の代表者で、支那プロレタリア十數萬を虐殺しプロレタリア革命を絞殺した反革命派の首領である。一九〇五年日本に留學中の孫文の中國革命同盟會に加盟し、一九二三年ソビエト・ロシアに留學し、歸國後黃浦軍官學校を樹立し、一九二六年第二次國民黨大會に於て中央執行委員及國民革命軍總監に選ばれるや、一九二八年にはクーデターを斷行し、共產黨員の大衆的逮捕虐殺を行つて南

三九八

京に反革命政府を樹立した。又、彼は支那ブルジョアジ及米帝國主義者の番犬であつて、一九二九年來馮、閻、廣西派等の軍閥と交戦し、且つ支那共產黨の追撃と共に蔣介石政府は顛覆されようとしてゐる。

【ス】

スターリン (ヨシフ・ワシリーウイツチ)

全聯邦共產黨及コミンタンの最大の指導者の一人。本名はジュガシウイリで一八七九年貧農の子として生れた。十七歳以來革命運動に身を投じ、社会民主黨に屬してゐた。マルクス主義者としてチフリ、バクー、バツィム地方等で労働者の間で革命運動を組織し、一九〇二年逮捕され三年間投獄された出獄後更に猛烈に活動し、一九〇八年バキン委員會を指揮して三ヶ年の流刑に處せられたが、翌年逃亡

し、革命運動を指導した。最後に一九一三年に捕縛されグレイカ村落に流刑され其處で三月革命迄過した。三月革命後「ブラウダ」「労働者と兵卒」「労働者の道」各紙の主筆となり、且つレニンググライドソビエツトを指導してゐた。一九一九―二〇には労働監督人民委員長、革命軍事會議委員として反革命を鎮壓した。更に十一月革命後はロシア共產黨の中央委員に選ばれ、レーニン主義の繼承者として、トロツキー、カリーメネフ、ジノビエフ、ブハーリン等の小ブルジョアの反対派を驅逐し、ソビエツト・聯邦の共產主義の建設を進め、又一九二六年來コミンテルンの幹事長として、世界プロレタリアートの革命運動を指導しつゝある。現在、全聯邦共產黨中央委員及書記長、同政治部員、コミンテルン幹事長で、著書「レーニン主義の理論と實踐」「ボルセビズム」「レーニン主義の基礎」「十月革命への道」「十一月

革命と民族問題」等々がある。

スチルネル (一八〇六生―一八五六歿)

本名ヨハン・カスパー・シユミツト。ドイツの徹底的個人主義の哲學的無政府主義者。「唯一者と其所有」等の著がある。

スノーデン (ワイリツプ) (一八六四生)

イギリス社会民主主義者で労働黨の幹部。彼はマクドナルドと共に最初非戦論を唱えたが、間もなく裏切り、現在は右翼派の首領の一人で、一九二四マクドナルド内閣が成立するや大蔵大臣となり、一九二九年の第二労働黨内閣にも大蔵大臣となつてゐる。

スミス (アダム) (一七二三生―一七八九歿)

ブルジョア經濟學の建設者の第一人者。グラスゴー大學、エジンバラ、牛津大學に學び後グラスゴー大學の論理學の教授となつた。此の時代ヒュームと

(ス)

三九九

(ス・セ)

交り經濟問題の研究を續け一七六三年巴里、ジュネーブ等に旅行し、經濟學者ケネー、チユルギー等と交り、「富國論」の執筆に着手し、一七七六年に完成した。一七八七年グラスゴー大學總長となつたが翌翌年死亡す。著書「道徳情操論」「富國論」等が有名。

スバルゴ (ジョン) (一八七六年生)

アメリカの反動的社會民主主義者。イギリスに生れ十八歳で社會主義者となり、一九〇〇年ポーア戦争に反對し、アメリカに移住した。ロシア革命後ボルセビイキの反對者の先鋒として反革命理論を撒き散してゐた。著書「社會主義」「カール・マルクスの生涯と事業」「マルクス社會主義」「史上最大の失敗たるボルセヴィズム」等がある。

スペインス (トーマス) (一七五〇生—一八一四歿)

イギリスに於ける土地國有論の創始者。著書「自由の最高の太陽」「壓迫の終焉」がある。

四〇〇

ステパノフ (筆名スクウオルツォフ) 一九二八年末死。全聯邦共産黨中央委員。イズウエスチヤ紙主筆。一八九四年から革命運動に投じ、度々投獄され、十一月革命後反革命鎮壓に奮闘す。國立出版部參與、モスコイ共産大學教授を経て、現職に選らばる。

【セ】

セマシコ (ニコライ・アレクサンデルウイチ)

全聯邦共産黨員。一八六九年に生る。一八九三年ロシア社會民主黨結黨に加はり、引續いて革命運動に身を投じ一九〇五年までに四回逮捕投獄され、ゼネバ、巴里等に亡命し、レーニンの指導の下にボルセビイキ中央委員局在外書記局員として活動し、一九〇八年ゼネバで檢舉されたが、三月革命後歸國して革命を指導し十一月革命後ソビエツト聯邦保健人民委員長として、ソビエツト兒童からも「同志セマ

シコ」と呼ばれ懐かれてゐる。

ゼルジンスキー (フェリクス・エドムンドウイチ)

ロシア共産黨幹部。(一八七七年生—一九二六年歿) 一八九五年來革命運動に身を投じた。一九一七年三月革命迄五回投獄と流刑に處せられ、亡命中國國際的會合に度々出席した舊い功勞者である。十一月革命當時レニングラードで奮闘し、革命成功後は引續きロシア共産黨中央委員、同政治部員候補者、國家保安部々長、最高經濟會議々長等に任せられ、又一九二六年の新反對派に對しては幹部派として大に奮闘したが、七月新反對派攻撃の討論中心臓癱瘓で倒れた。

【ソ】

宋慶齡 (ツォーケイレイ) 一八九〇年生。

支那の孫文の未亡人で支那國民黨執行委員會委員

(セ・ソ)

蔣介石等の反革命派に反對し、一九二七年ポロジシ、陳友人等と共にロシアに亡命し、支那革命はソビエツト・ロシアのプロレタリアと協力すべきことを聲明し、現にロシアに於ける中國婦人政治學校長として活動してゐる。

蘇兆徴 (ソ・チョーチョー)

支那共産黨の指導者。一八八四年生。一九二一年香港海員ゼネストを指導し、支那總工會の幹部や一九二六年來の汎太平洋會議の幹部として活動すると共に武漢革命政府委員となつてが、武漢が蔣介石によつて攻略されるに及び同年末廣東ソビエツト政府を樹立し、其の委員長となつたが再び攻略され、目下支那共産黨の幹部として中華全國總工會首席、海員工會委員、ストライキ委員會委員に任せられ、支那プロレタリアの革命運動を指導しつゝある。

孫文 (ツンブン) (一八六五生—一九二五歿)

四〇一

支那國民革命の中心人物として活動し、三民主義の創始者、國民黨の創立者である。字は逸仙、號を中山と言ふ。廣東香山縣に生れ、最初醫學を學んだが一八九七年清朝を顛覆し支那共和國を樹立することを目的とし興中會を樹立したが露見してロンドンに亡命した。一九〇五年日本の東京に亡命し、湖漢民、汪兆銘、蔣介石等と共に中國同盟會を結成し、機關紙「民報」を發刊した。一九一一年宣統帝亡び第一次支那革命が起きるや、一九一二年一月彼は中華民國臨時大統領となり、支那共和國建設のために努力したが、袁世凱と妥協し、袁に地位を讓つて、自からは國民黨の黨首となつた。袁は自から帝政派となつて革命を抑壓し出したので孫文は再び革命を企て日本に亡命したが、一九一六年五月上海に渡り同六年七月季烈鈞等と共に廣東に政府を組織し自ら大統領となつた。彼は此の頃ソビエツト・ロシアと

の協力を求め、ヨツフェ、廖仲愷の努力によつて支那共產黨とも提携し、國民革命軍を興し、北伐を決定しようとして企て、一九二四年第二奉直戰後段祺瑞、張作霖等と會見のため天津に赴いたが一九二五年三月病を得て客死した。(三民主義の項参照)

ソレル (ヂョルヂユ) 一八四七生—一九二二歿。
フランスのサンヂカリズムの理論家。彼は、革命的組合主義者で、「ドウヴニール・ソシアール」誌を發刊し、アミアン憲章の起草者として、政治的中立を唱え、工場占領の直接行動による革命を唱えた。
著書「サンヂカ社會主義の將來」「近代經濟學概説」「マルクス主義批判」「暴力論」等々がある。
ゾムバルト (ヴェルナー) 一八八八年生。
ドイツのマルクス主義批判を専門とする經濟學者著書「近世資本主義」「プロレタリア社會主義」「ブルジョア」等がある。

【タ】

譚平山 (タン・ペイザン) 一八八七年生。

支那共產黨の舊指導者。一九一九—二〇年にコミンテルンの指導の下で共產黨機關紙「群報」を廣東で發行し、北京の李大釗、上海の陳獨秀と共に指導者となり一九二三年の中國共產黨大會には廣東を代表して出席し、一九二四—二五年には廣東のストライキを指揮した。第二次國民黨へは中央執行委員政治部員、中央黨部組織部長となり、又、一九二六年にはコミンテルンの大會に出席し、同中央執行委員に選任され、支那及アジアの革命運動を指導してゐた。一九二七年の蔣介石のクーデター後武漢政府の農民部長であつたが、武漢の敗北後は行衛不明となつた。又、彼は陳獨秀と共に彼等の指導方針が小ブルジョア的であつたことを、其後コミンテルンによつ

(タ・チ)

て批判されるに至つた。

ダーウイン (チャールズ・ロバート)

イギリスの博物學者で進化論の創設者。一九〇九生—一八八二歿。著書「一博物學者の航海」「人間の由來」「飼養に於ける動植物の變異」「人間及動物に於ける感性の表現」「種の起源」等。

【チ】

チチエリン (ゲオルグ・ワシリエウイチ)

全聯邦共產黨中央委員。ソビエツト聯邦外務人民委員長。一八七二年外交官の家に生る。一九〇五年ボルセビイキに入黨、其後十四年間國外に亡命し、追放、拘禁などされ、一九一七年末ロシアに歸り一九一八年三月以來、トロツキーの後を受けて現地位に任ぜらる。

チヘエゼ (エヌ・エス) 一八六三年生。

(チ。ツ)

ロシアのメンセビイキ派の長老。メンセビイキ派院内総理や三月革命後レニングラード労兵會長に推されたが、ブルジョア聯立内閣を主張し、十一月革命後は國外に逃亡し、反ソビエットの反革命運動を續けてゐた。

陳獨秀 (チン・ドクシユー) 一八八〇年生。

支那共産黨の舊中央委員長で、現在は右翼清算派日本の高等師範に學び、北京大學の教授となつたが國民革命運動に加はつて免職され、其後共産主義者となつて上海で活動し、支那共産黨機關紙「警導」等を編輯し、且つ黨中央委員コミンテルン代表等として支那プロレタリア革命を指導したが、日和見政策のため蔣介石のクーデターに破れ、モスコウに亡命し、現在ではコミンテルンから在來の方針を批判され間もなく除名された。

四〇四

【ツ】

ツエトキン (クララ) 一八五七年生。

ドイツ婦人共産黨員で、コミンテルンの執行委員反戦運動のためドイツ社會黨から除名され、リール、クネヒト、ルクセンブルグと共にスバルダカス團及共産黨を組織し、其の執行委員に選ばれ、獨逸にプロレタリア獨裁政治を樹立せんとしたが社會黨の鎮壓によつて敗北し、間もなくコミンテルン代表となり現在ロシアにゐる。著書「現代の婦人問題における婦人労働者」「プロレタリア婦人運動の起源」「プロレタリアと藝術」「マルクスと其の事業」等。

ツガン・バラノフスキー 一八六五年生—一九一九歿。

ロシアの修正派マルクス主義經濟學者。著書「近代社會主義と其の史的発展」「マルクス主義の理論的根據」「經濟學原論」「協同組合の社會的基礎」「紙

幣と硬貨」「實證論としての社會主義」等。

【テ】

テイツゲン (ヨセフ) 一八二八年生—一八八八歿。

ドイツの社會主義者で辯證法的唯物論者。彼は靴皮工出身であつて、マルクスはヘーゲの労働會議で彼を「吾々の哲學者」として紹介した。併し、彼の哲學は未だ眞に唯物辯證法的(マルクス主義的)ではない。著書「一労働者の見たる人間頭腦の働き」「哲學の實果」「一社會主義者の認識論の領域への侵入」等。

テヴィル (ガブリエル) 一八五四生。

フランスのゲード派のマルクス主義者。彼は、又「人民の叫び」「平等」誌等に寄稿しゲード等と國際社會主義者會議を組織し、二ヶ月の禁錮に處せられたこともある。著書「マルクス資本論」「社會主義

(テ。ト)

の哲學」「社會主義者の原則」。

テプス (ユージン・ヴィクトル) 一八五五年生。

アメリカの労働運動の首領。米國鐵道労働組合の創立者で、一八九七年まで其會長であつた。一八九四年大罷業を組織して投獄され、出獄後社會主義者として活動し、一九〇〇年には社會民主黨の大統領候補者となつた。

テ・レオン (ダニエル) 一八五二年生—一九二五歿。

アメリカ社會労働黨の指導者として、ゴンベイスの米國労働聯合會に對抗して革命的労働組合を組織し、アメリカ労働運動に貢献した。尙、テ・レオンの主張は、二重組合主義であると日和見主義者から攻撃されたこともある。

【ト】

トーマ (アルベール) 一八七四年生。

四〇五

フランスの右翼労働運動指導者で、国際聯盟の労働事務局局長。彼は最初サンヂカリストであつたが歐洲大戦に愛國者となり、軍需大臣となつて世界プロレタリアを敵とした。現にフランス社会黨右翼の領袖の一人でもある。

トーマス (ジエームス・ヘンリー) 一八七八年生。

イギリス労働運動の右翼首領。歐洲大戦に賛成して愛國者となり、三角同盟の罷業を破壊してスカツプの元兇となり、一九二四年マクドナルド内閣の植民大臣、二九年の第二次内閣の掌櫃大臣となつて益益プロレタリアートの公然の敵となりつゝある。

トムスキート (ハイル・パウロウイチ)

ソビエツト全聯邦労働組合中央評議會議長、全聯邦共産黨中央委員。一八八〇年に生る。紙函工場徒弟から印刷工になり、二十一歳の折にはレニングラード其他で革命的労働運動に参加し、一九〇五年

労働者ソビエツト代表に選ばれる。三月革命までに檢舉投獄四回に及び最後は一九〇九年五ヶ年の重懲役に處せらる。三月革命後レニングラードに歸り、ボルセビイキの七月暴動及憲法會議召集のため活動した後金屬工組合機關紙「メタリスト」編輯長となり、モスコフ・ソビエツト議長に選ばれる。一八一八年全露労働組合中央評議會幹部並機關紙編輯長及ロシア共産黨中央委員に選出され、更らに一九二二年全聯邦労働組合中央評議會議長となり、現在に及ぶ。

トロツキー (レフ・ダウイドウイチ)

ソビエツト・ロシアの前陸海軍人民委員長、ロシア共産黨前政治部長、コミンテルン前執行委員。一八七九年生。オデツサ大學に學び、一八九七年「南露労働者同盟」に加はつて逮捕され、一九〇二年脱走して國外に亡命し、同五年迄「イストラ」の編輯同人で、メンセビイキ派に屬してゐた。一九〇五年

歸國し「永久革命の理論」を唱導すると共に、レニングラード労働代表評議會(ソビエツト)の議長となり、間もなく逮捕されシベリアに流刑されたが逃走し、ロンドンに亡命しヨッフエ等と「プラウダ」を發刊した。歐洲大戦當時各國を亡命して非戦論を唱え、國際會議に出席し、インタナショナルの機關紙の編輯に従事し、ボルセビイキとメンセビイキの統一に努力してゐた。最後にアメリカに亡命し、一九一七年三月革命後歸國し、同年七月ボルセビイキに参加し七月事件で二ヶ月間ケレンスキに逮捕されたが、出獄後レニングラード・ソビエツト委員長となり十一月革命の準備行動を指揮した。十一月革命後共産黨中央委員會政治部長及外務人民委員長、陸海軍人民委員長、革命軍事會議々長、コミンテルン執行委員等の要職にあつて、プロレタリア革命を指導したが、一九二三年以來レーニンの新經濟政策に

反對し、且つ黨の民主化を主張し、一九二四年の黨第十四回大會には農村問題及黨組織問題について小兒病的反對提案をなしたが克服され、中央利權委員長、最高經濟會議幹部員等に左遷された。然るに一九二六年來ジノビエフ、カメネフ、ラデツク等と反幹部派プロツクを組織し、その總指揮者として黨の統制を攪亂し、第二黨を組織し國際的に反對派を結成しようとする企み、一九二七年十一月黨から除名され、凡ての職籍を剝奪され、一九二九年國外に追放される。著書「テロリズムと共産主義」「戦争とインタナショナル」「一九〇五年の教訓」「文學と革命」等其他多くある。

トム・マン

英國の革命的労働運動の指導者。始めサンヂカリストであつたが、後共産主義者となり、坑夫の大ストライキを指導し現在七十有餘歳にも不拘ず壯者を

渡ぐ元氣で、イギリス少数派會議の議長をつとめてゐる。

【二】

ニユーボルト (ウオルトン)

イギリスの共産主義者。一八八八年生。一九〇八年フェビアンに加はつたが、一九二一年英國共産黨に加盟し、同黨執行委員、コミンテルン執行委員になつた。一九二三年共産黨代議士に當選したが一九二四年黨及コミンテルンから脱退した。著書「資本主義の策略」「資本主義と戦争」等。

【ネ】

ネフスキー (ワシリイ・イワノウイチ)

全聯邦共産黨の舊幹部。一八八五年生。現在レーニン圖書館長、共産黨史編纂委員、雜誌「クラスナ

ヤ・レドビシ」(赤色年誌)の主宰者。

【ノ】

ノギン (ワシリイ・ペトロウイチ)

ロシア共産黨舊幹部、前ソビエツト最高經濟會議議長。舊いボルセビキ功勞者であつたが一九二四年五月死す。現に最高經濟會議場前の廣場をノギン廣場と改稱し彼の功勞を記念してゐる。

【ハ】

ハインドマン (ヘンリー・メーヤーズ)

イギリスの社會民主主義者。一八四二生—一九二三年歿。彼は最初マルクス主義者として一八八一年社會民主同盟を創立し、一八九六年ロンドンのインターナショナル會議の議長を務めたのであつたが、一九〇〇年來第二インターナショナルの事務局の一

員として活動し、歐洲大戦には愛國者として立現れ戦争に参加し、裏切者となつた。「社會主義の歴史的基礎」「社會主義經濟學」「革命と進化」等の著書がある。

ハーゼ (フリーゴ)

ドイツの社會主義者。一八六三年生。辯護士であつたが一八九七年社會民主黨の代議士となる。歐洲戦争中カウツキーの影響下に屬し、一九一六年戦争繼續に反対しカウツキー、レデブル等と脱黨して獨立社會民主黨を組織し、一九一八年シャインデマン政府に入つたが、間もなく脱退した。一九一九年國粹主義者に暗殺さる。

ハーデイ (ジエームス・ケーア) (一八五六生—一九一五死)

英國鐵夫組合の指導者で社會主義者。一八九二年英國で最初の勞働者代議士となり一八九三年獨立勞

働黨を組織し、「レーバ・リリーダー」紙を創刊し、又英國勞働黨の創立に貢献し、歐洲大戦には非戰論を唱へたが一九一五年歿した。彼は日本に来て演説した事もある。「農奴制から社會主義へ」等の著書がある。

バクレーニン (ミハエル)

ロシアの無政府主義者(一八一四生—一八七六歿)貴族の子でフランスに留學しブルードンと議り無政府主義者となつた。一八四七年ロシアを追放され、一八四九年にはドレスデン暴動、一八六三年のポルトガル暴動、一八七一年のバリ・コンミュンの一揆等を指揮し、死刑を宣告されたこともある。又一八六五年には第一インターナショナルに参加し、マルクスに抗爭し「ジュラ」同盟を組織して對抗したが、勿論彼の理論及闘争は敗北した。

バブーフ (フランソワ・ノエル)

(ハ・ヒ)

フランス大革命時代の革命家。彼は政治的自由平等の主張から更に経済的平等の主張を立て、彼獨特の共産主義を唱え、一七九五年に「パンテオン團」を組織し、一七九七年ナポレオン政府に對する一大反亂を企てたが、捕えられて斷頭臺の露と消えた。

(一七六四生—一七九七歿)

バルビユリス (アンリ) (一八七四年生)

フランスの共産主義文學者。彼は一九一四年歐洲大戰には愛國者として参加したが、其後非戰論者となり一九一九年以來クラルテ運動(文藝家インターナショナル)を組織し、共産主義、反軍國主義、被壓迫民族解放運動等に貢献してゐる。「地獄」「砲火」「タラルテ」「哭く人」等の作がある。

【ヒ】

ヒルキツト (モリス)

四一〇

アメリカの社會主義者(一八六九年生—一八八六年歿)。アメリカ社會黨員で一九〇四年第二インターナショナルの事務局代表者となつた。著書「アメリカ合衆國に於ける社會主義」「理論と實踐における社會主義」等。

ヒルフアーディング (ルドルフ)

ドイツ社會民主黨の指導者で其の大藏大臣。醫學博士で社會民主黨に屬してゐるがマルクス經濟學を研究し、マクス・アドラーと共に「マルクス研究」を刊行し、有名な「金融資本論」を著した。一九〇七年「前進」紙の主筆となり歐洲大戰中社會黨の分裂により獨立社會黨の中央委員となり第二インターナショナルに屬したが其後合同によつて社會民主黨に復歸し、第二インターナショナルの經濟的理論の指導者となつた。一九二三年及一九二九年の獨逸社會民主黨内閣には、彼は大藏大臣となり、社會愛

國者としてプロレタリアに敵對しマルクス主義を曲歪するために悪命となつてゐる。

【フ】

フオイエエルバツハ (ルドウイヒ・アンドレアス)

獨逸のヘーゲル左派(唯物論)の哲學者(一八〇四生—一八七二死)。マルクス、エンゲルスの唯物辯證法によつて批判の對象とされたので有名である。著書「ヘーゲル哲學批判」「基督教の本質」「宗教の本質に就て」「將來哲學の根本命題」「哲學改革への提言」等多くある。

フリーリエ (フランソア・シャル・マリー)

サンシモンと共にフランスの空想的社會主義者である(一七七二生—一八三七死)。彼は私有財産制を認めたと上で、愉快な労働組織を作り出すために二百人乃至四百人の共産主義的共同住宅(フアランジュ)

を案出したが失敗し、富豪の出資を希望し乍ら死んだ。著書「四運動論」「内地農業組合論」「新産業界」等。

フオタリス

アメリカの赤色労働運動の指導者。最初I.W.W.に屬してゐたがゴンバース主義と戦ひ、労働組合統一同盟を指導すると共にアメリカ共産黨の幹部として活動してゐる。

ブハーリン (ニコライ・イワノウイテ)

全聯邦共産黨中央委員。前中央委員會政治部員黨機關紙「プラウダ」主筆並に前コミンテルン執行委員一八八八年生。一九〇六年社會民主黨に加盟し、同八年モスコイ委員會委員となる。投獄一年後流刑三年に處せられたが逃亡し、一九一七年三月革命後迄歐洲に亡命し、レーニン等と活動してゐた。十一月革命當時はモスコイで活動し、革命後最高經濟會議

官制を制定したり、「プラウダ」主筆となつた。プレス
ト平和條約には反対し、レーニンに克服された事も
あつたが誤謬を清算し、共産党中央委員、同政治部員
として活動し一九二七年にはコミンテルンの執行委
員會議長となつた。併し一九二九年以來「資本主義の
安定と暗澹たる世界革命」の右翼的偏向の誤謬の爲
に半失脚した。又彼は有数の理論家で「史的唯物論」
「轉形期の經濟學」「世界經濟と帝國主義」「經濟政
策の新方針」「共産主義ABC」等の著書がある。
しかし彼の著書も亦多くの誤謬に満ちてゐるとして批
判されつゝある。

ブブノフ (ア・エス)

ソビエツト・聯邦革命軍事會議政治部長、全聯邦
共産黨中央委員及全組織部員。

ブレハノフ (ゲオルク・ヴレンチノヴィチ)

ロシア社會民主主義者。(一八五六年生—一九一八

年死) 大學生時代は「土地と自由」派に屬してゐた
が一八八三年アクセリロード、ガスリツチ等と「勞
働解放團」を組織し、マルクス主義のために戦ひ、
一九〇一年レーニン、マルトフ、ガスリツチ、アク
セリロード等と「イストラ」を發刊してマルクス主
義の父と言はれてゐた。併し一九〇三年黨の分裂に
際し、メンシエビイキの指導者となり歐洲大戦には
愛國者になり下り、ロシア十一年革命には反革命と
してカウツキーと呼應し、反革命運動を續けて裏切
者の代表者となつた。著書「唯物論史」「マルクス
主義の根本問題」「無政府主義と社會主義」「社會主
義と政治闘争」等がある。

ブルードン (ビエール・ジョセフ)

フランスの無政府主義者(一八〇九生—一八六五
死)。職人の子で労働者となり其間に獨學してゐた。
一八四〇年「財産とは何ぞや」を著し漸く無政府主

義者として活動し、一八四八年の革命に参加し投獄

されたことも二三回はある。又、彼はマルクスの論
敵でマルクスによつてこつびとく批判され、小ブル
ジョア社會主義と呼ばれてゐた。著書「財産とは何
んぞや」「貧困の哲學」「革命及教會における正義」
「進歩の哲學」「一革命家の告白」等がある。

フランキー (ルイ・オーギュスト)

フランスの一揆暴動主義の革命家。(一八〇五生—
一八八一死)。彼は一八三九年、一八四八年、一八七
一年の暴動を指揮し、革命の唯一の手段は一揆暴動
であるとなし、一生の過半を牢獄で暮した。又、第
一インターナショナルにも加はつてゐたが、バクー
ニンと結托してマルクスに對抗してゐた。彼の全主
張は、組織活動と大衆闘争を否定するもので、小ブ
ルジョア革命主義にして、反プロレタリア的である。
(一揆主義の項を見よ)

ブリアン (アリテイード)

フランスの政治家。元フランス社會民主黨員であ
つたが、代議士となり大臣となるに及んで一九一〇
年の鐵道ゼネラル・ストキイキを武力を以つて彈壓
し全く反動的ブルジョアと化し、社會黨からされ除
名された。一九〇九年、一九一三年、一九一五年、
一九二一年度等度々總理大臣となつてフランスプロ
レタリアートに敵對してゐる。

ブレンタノー (ルヨー)

獨逸の反マルクス主義經濟學者で社會政策學者。
(一八四四年生)。著書「勞賃と勞働時間の關係」「現
代法による勞働關係」「社會問題研究」「社會政策研
究」。

【ハ】

ヘーゲル (ゲオルク・ヴィルヘルム・フリードリッヒ)

ドイツの思辨哲學者(一七七〇生—一七三一死) 辯證法の最初の體系的創設者であるが、彼の辯證法は唯心的で「逆立ちしてゐる」のでマルクスによつて變革された(辯證法參照) 著書「精神現象論」「論理學」「エンチクロペデー」「法律哲學綱要」等がある。

ヘルツェン (アレクサンデル・イヴァノウィッチ)

ロシアの無政府主義者(一八一二年生—一八七〇年死)。彼は貴族の出身で、小ブルジョア革命家として「ツァー」のXXのために一生を投獄と亡命に送つた。又無政府主義機關紙「コロコロ」の編輯者であつた。

ヘンダーソン (アーサー)

イギリスの改良主義労働運動家。一八六三年生。労働官僚であると共に英國労働黨の幹部で、一九二四年マクドナルド内閣には内務大臣として労働者運

動を彈壓し、一九二九年には外務大臣として愛國主義の本性を露出しつゝある。

ペーベル (フェルディナンド・アウグスト)

獨逸の社會主義者(一八四〇生—一九一三死)。ドイツ労働運動の指導者で、ラツサールとリーブクネフトの中間に立つてゐた。其の合同に努力すると共に獨逸社會主義及第二インターナショナル創立者の一人で其の幹部となつてゐた。一八七一年以來議員となり軍國主義及カイゼルの政策に反對し、度々投獄された。著書「吾々の目的」「基督教と社會主義」「社會民主黨と普通選舉」「婦人と社會主義」等がある。

ベラ・クン

ハンガリー共產黨の指導者。一九一八年ハンガリー革命の失敗によつてロシアに亡命し、現に第三インターナショナルの執行委員として活動してゐる。

著書「レーニン主義のABC」等がある。

ベルンシユタイン (エドワアルト)

獨逸社會民主黨の指導者(一八五〇年生)。一八九九年修正派マルクス主義を唱導してマルクス主義を歪めることに専念し、カウツキーに批判されたが、カウツキーも亦彼の説を追つて提携し、現にドイツ社會民主黨の改良主義議會議主義の理論的指導者として國際プロレタリアートの闘争を裏切りつゝある。

著書「社會主義の理想と社會民主黨の課題」「社會的なるものと私有財産」「社會主義の歴史理論」「労働運動」。

ペトロフスキー (グリゴリ・イワノウィチ)

ソビエツト。聯邦中央執行委員會議長、全聯邦共產黨中央委員。(一八七七年生)。労働者出で一八九五年以來のボルシェビキであり數回投獄され三月革命で釋放され十一月革命後一九一九年内務人民委員

長となり續いて現職に選任さる。

【ホ】

ホツチ (ジョン) (一八五五年生)

イギリスの右翼労働運動家並英國労働黨幹部。一八九二年英國労働組合議會議長となり一九二四年労働黨内閣には労働大臣となり、第二次内閣には恩給大臣となつた。

ホブソン (ジョン・アトキンソン)

英國の自由主義經濟學者。(一八五八年生) 著書「近代資本主義進化」「失業問題」「帝國主義」「貨幣、價值、賃銀」等があり、彼の「帝國主義」はレーニンの讀辭を得てゐる。

ボクダーノフ (ア・ア) 本名マリノフスキー

ロシアのマルクス主義者。一八九〇年以來、ロシア社會民主黨に加盟し、分裂後ボルシェビキに關

(ホ)

してゐたが、第二國會ポイコツトを主張し、レーニンから「召還派」とし批判された。ルナヤルスキー等と機關紙「フベリヨド」を發刊し、經驗批判論を導入して批判され一九〇九年ボルシェビキから除名された。著書「經驗一元論」「經濟學概論」「組織學」等がある。(一九二八年死)

ボグダーノフ (ベ・ア) (一八八二年生)

ロシア共和國最高國民經濟會議議長代理。全聯邦共産黨中央統制委員、一九〇九年以來ボルシェビキに加はり、一九二一年現職に任ぜらる。ソビエツト・聯邦に於ける有数の經濟學者。

ボポフ (エヌ・エヌ)

全聯邦共産黨中央委員同宣傳部長。一九〇六年にボルシェビキに加盟し、投獄、追放等數回に及び一九一七年革命後「コンムニスト」紙主幹、黨中央委員會民族部長となり、一九二三年現職に任ぜらる。

四一六

著書「民主々義革命の轉化の歴史的條件」等。
ボルデイガ

イタリア共産黨指導者。伊太利工場占領の時プロレタリア獨裁のため力戦したが、社會民主々義者の裏切及ファシスト獨裁に破れ、ロシアに亡命し現にコミンテルの執行委員として活動してゐる。

ボローチン

全聯邦共産黨員。一九二〇年コミンテルから土耳其に派遣されケマルパシアの革命を援助し、一九二三年支那國民政府の最高顧問として支那革命を指導したが、國民黨の反革命的クーデターに依つて追はれロシアに歸つてゐる。

ポール (ウイリアム)

英國共産黨員(一八八四年生)。歐洲大戰に反對し、ソビエツト・ロシア承認に活動してゐたが、其後イギリス共産黨に加入し「コンミュニスト・レビニ

の主筆となつた。著書「國家の起源と職分」等。
ポトレソフ (ア・エヌ) (一八六九年生)

ロシアのメンシヴィキの首領。彼は労働者解放闘争同盟の創立者の一人で、レーニン等と共に革命運動に参加し、「イスクラ」の編輯同人となつてゐた。一九〇三年黨の組織問題でレーニンに反對し、黨を分裂せしめて自からメンシヴィキの指導者となつた。歐洲大戰には社會愛國者となり、反ポリシエビイキとして裏切のために活動してゐた。

【マ】

マクドナルド (ジエームス・ラムゼイ)

英國労働黨々首。第二インターナショナル幹部。(一八六六年生)。一八八八年ハーデイの獨立労働黨に参加し、一九〇六年代議士となり英國労働黨が結成されるや幹事となつた。一九一一年労働黨々首と

(ホ・マ)

なり、一九二四年及二九年に内閣を組織した。彼は自から社會主義者を以つて任じてゐるが、全く英國ブルジョアの代理人であつて、一九一一年の鐵道罷業の裏切り、労働黨内閣のインド抑壓、ドース案採用等で明らか如く、社會排外主義者であつて、英國プロレタリアートの眞正面の敵である。著書「社會主義」「社會主義政府」「議會と革命」等がある。
マルクス (ハインリッヒ・カール)

マルクス主義(共産主義)の建設者。一八一八年五月五日獨逸のトリエルにユダヤ人の法律家の子として生る。十七歳の時ボン大學に入り、法律を學び翌年ベルリン大學に轉じ、哲學、史學、法律を學び且つヘーゲル左派の哲學を研究した。又ブルノー・パウアーと哲學を専心に研究し、一八四一年イェナ大學の哲學博士となつたが、學界を去り一八四二年「ライン新聞」の主筆となつた。此の時代に經濟問

四一七

題及社會主義に接近し、「ライオン新聞」を去つて社會主義の研究に専心し、一八四三年にはアーノルト・ルーゲと共に「獨佛年誌」を編輯するためパリに移轉し、懸命に經濟學の研究を續けた。マルクスは此の時代から既に共產主義理論を把握してゐたもので、エンゲルスとの終生の交友も亦この時代に結ばれたのである。一八四五年にはエンゲルスと共に、「神聖家族」を著し、一八四七年には「哲學の貧困」を公にした。一八四七年ロンドンに於ける「共產主義者同盟」の大會にはエンゲルスと共に出席し、「共產黨宣言」を共に起草し、こゝにプロレタリアートの國際運動を指導するに至つた。一八四八年のパリ革命の後ドイツに革命の機運が波及したのでケルンに赴き「新ライオン新聞」を創刊して、革命運動を指導してゐた。一八四九年ロンドンに亡命し極度の窮乏の中に「ルイ・ボナバルト二月十八日」及「フ

ランスに於ける階級闘争」等を書き著すと共に、一八五九年には「經濟學批判」を公にし唯物史觀、價值學說等を創説した。一八六二年第一インターナショナルの創立には其の委員となり、又翌年の大會における演説は後に一冊子、「價值、價格、利潤」として公にされた。一八六七年には大著「資本論」一巻が公にされ、且一八七六年第一インターナショナルが解散される迄彼はブルードン派及バクティン派と猛烈に闘争し、プロレタリアートの革命理論と國際主義とを普及した。又一八七五年ドイツ社會民主黨のゴータ綱領の批判をしてプロレタリア獨裁論を創見し、ドイツ・プロレタリア運動の指導に努めてゐた。以後十二年間病魔と戦ひ乍ら資本論第二卷三卷の材料を蒐集し、アウトラインを書き示したまゝ一八八三年三月十四日ロンドンの客舎にエンゲルスに見守られ乍ら死んだ。(マルクス主義の項参照)

マルサス (トマス・ロバート)

英國のブルジョア經濟學者で、「人口論」の著者として有名である。(一七六六年生—一八三四年死) マスロフ (ビョトル)

ロシアの有名なメンシエビイキ。(一八六七年生) 合法的マルクス主義を唱へ、一九〇七年には黨の解散を主張した代表的人物である。歐洲大戰には「獨逸を征服せよ」と主張し全く愛國者となつた。

マルトフ (オ・エ) 本姓ツエデルバウム

ロシアのメンシエビイキの首領。一八七三年生—一九二三年死。一八九〇年末レーニンとベテルブルグに「労働階級解放闘争同盟」を組織し、投獄流刑を経て、一九〇〇年末レーニン、ポトレソフ、ブレハノフ、ガスリツチ等と「イスクラ」を發刊したが一九〇三年ロシア社會民主黨第二回大會で黨の組織問題でレーニンの革命的組織論に反対し、ポトレソ

フ、ブレハノフ等と共に、メンシエビイキを結成した。世界大戰中彼はメンシエビイキ少數派としてプロレハノフの愛國派に反対し、一九一七年三月革命後ソビエツト第二回大會後まではインターナショナルリストとして活動したが間もなく十一月革命後反革命としてソビエツト政府に反対し、一九二一年にベリリンに亡命し、二三年に死んだ。

【三】

ミコヤン (アナスタシ・イワノウイチ)

全聯邦共產黨中央執行委員、同政治部員候補者、ソビエツト・聯邦内外商業人民委員長。一八九五年生。一九一五年以來ボルシエビイキ黨員で三月革命後バクティンに派遣され同地のメンシエビイキと交戦し一九二〇年同地にソビエツト政權を樹立した。共產黨十二回大會で中央委員に選出され一九一九以來黨

(ミ・ム)

中央執行委員となり、一九二六年カメネフの失脚の後と共に現地位に選任さる。

ミハイロフ (ワシリー・ミハイロウイチ)

全聯邦共産黨中央委員、全聯邦労働組合中央評議會幹部。労働組合モクワフ市評議會議長。一八九四年生。労働者出で小學教育を受けたのみである。一九一二年以來労働運動に参加し、一九一五年にボルシェビキに加盟し、一九二〇年以來黨中央委員に選ばれ、又第六回全露労働組合大會以來其中央評議會幹部員に選出され現在に至る。

ミル (ジョン・スチアート)

英國の經濟學者。一八〇九年ジェームス・ミルの子として生る。彼は功利主義の立場からリカルド説と社會主義經濟論とを混合したもので、折衷派經濟論者と言はれてゐる。「經濟學原理」「婦人論」等が有名である。一八七三年死す。

四二〇

ミルラン (一八五九—)

フランス社會黨の幹部であつたが、一八九九年以來度々入閣し、大統領ともなつて全くプロレタリアに敵對し、ストライキを軍隊を以つて鎮壓した。彼等の斯る裏切りが、サンチカリズムの政治否定論が生れた原因の一つである。

【ム】

ムツソリーニ (ベニトー)

イタリアのファシストの首領にして、反動的獨裁官(首相)である。(一八八五年生)。若い頃はサンチカリストであつて、一九一四年ロマグナ、タスカニー等の革命運動に参加してゐたが、歐洲大戰中熱烈な愛國者となり進んで従軍し、イタリア社會黨から除名された。歐洲大戰後に工場占領が行はれ、國內が動亂してゐる時、ファシスタを組織し、暴力を

以つて一九二二年政權を奪取し、共産主義者及革命的労働者を何十萬と虐殺してファシストの獨裁政權を維持し今日に至つてゐる。(ファシズムを参照せよ)

【メ】

メーリング (フランツ)

ドイツのマルクス主義者。一八四六年生。一九一八年のドイツ革命にはリーブクネヒトを授け、スバルカス團及ドイツ共産黨に参加した。彼は又マルクス・エンゲルス遺稿編輯者として有名で、著書「ドイツ社會民主黨史」「エンゲルスとラツサール」「カール・マルクス傳」等がある。

メンガー (アントン)

オースタリーの法律學者で労働法制家。一八四一年—一九〇六死。労働權、生存權、労働全收益權を

(メ・モ)

力説した社會改良家である。著書に「労働全收益權」「新國家學說」がある。

メンガー (カール)

奧太利經濟學派の創始者。一八四〇生—一九二一年死。ブルジョア經濟學者で著書に「國民經濟學原論」「社會學方法論研究」等がある。

メルケル (パウエル)

ドイツ共産黨の極左翼。獨逸赤色労働運動の中心人物で、ロシアのロゾフスキーと共にプロヒンタンの指導者であつたが、今は没落した。

【モ】

モリス (ウイリアム)

イギリスの藝術社會主義者。一八三四生—一八九六死。一八八五年以來社會民主主義運動に参加したことがあるが、それよりも著書「藝術と社會主義」

四二二

(モ・ヤ・ヨ)

「無何有郷記」等の夢物語が有名である。(藝術社會主義を参照せよ)

モロトフ (ミハイロウイチ)

全聯邦共産黨中央委員、同政治部員及同書記。一八九〇年生。一九〇六年ロシア社會民主黨に加盟し革命運動のために投獄六回、流刑二回に處せられた三月革命後十一月革命當時はレニングラードで活動し、一九二二年共産黨中央委員及政治部員に選出され現在に至つてゐる。彼はトロツキ派及ジノビエフ、カメネフ等の幹部反對派の誤謬に對して幹部派として闘争したのみならず、全聯邦共産黨の社會主義農業政策遂行の指導者である。

【ヤ】

山本宣治 (ヤマモトセンジ)

明治二十二年京都に生る。

四二二

一九二三年京大講師となり、一九二五年大學を追はれ爾來勞働學校、政研、勞働農民黨、京都作給者組合、議會解散請願運動等に活動し、昭和二年勞農黨から代議士に當選す。第五十六議會で共産黨檢舉及勅令治案維持法に反對し、昭和四年三月五日處殺さる。著書「山宣全集」八巻が發刊されてゐる。

ヤロスラフスキー (エメリヤン・エメリヤノウイチ)

全聯邦共産黨中央統制委員會書記長。一八七八年生。シベリア流刑囚の子で一九〇三年入黨。革命運動のため八年の重禁錮に處せられたこともある。「農村プラウタ」紙主筆、黨西比利亞ビュロー書記長ベルム縣ビュロー議長等に歴任し、一九二二年現地位に選任さる。共産黨組織問題及「レーニンの生涯と事業」等の著がある。

【ヨ】

ヨツフエ (アドルフ・アブラモウイチ)

ソビエツト・聯邦の前極東全權、及中央利權委員會幹部。(一八八三年生)一九〇一年社會民主黨に加盟し、投獄流刑を度々受け、十一月革命當時にはレニングラード革命委員會議長として貢献した。彼は一九一八年ブレスト平和條約を始め、一九二一年のゼノア會議、一九二二年の長春會議、日露豫備交渉等に働き、當時北京駐在極東全權であつたが、日露交渉當時より病氣となり歸國し、利權委員會長に任せられたが一九二七年十一月神經衰弱のため自殺した。彼は、又トロツキ派の首領でもあつた。

【ラ】

ラコヴスキー (フリスタヤン・ゲオルヂウイチ)

(ヨ・ラ)

ブルガリアの共産主義者で、前ソヴエツト聯邦の駐佛大使及外務人民委員長代理。歐洲大戰中ルーマニアにあつて戦争反對と世界革命を高唱して逮捕されたが、ロシア十一月革命によつてヤッスを革命軍が占領した爲、釋放され以來ロシア共産黨の中央委員として活動しコミンテルンの成立にも努力した。彼はトロツキ派の反對派に屬し、一九二七年には再び新反對派の聲明をし、ソビエツト・聯邦の職籍を罷免され且つ共産黨からも除名された。

ラスキン (ジョン)

イギリスの藝術社會主義者。(一八一九年生)一九〇〇年死)彼はオックスフォード大學美術教授となり、かたわら勞働者教育に従事してゐた。著書「この最後のものにも」「フォルス・クラウイゲラ」「藝術經濟學」等が著名である。オックスフォードの勞働大學はこのラスキンを記念するために建られたの

四二三

(ラ)

である。(藝術的社會主義の項参照)

ラツサール (フェルディナンド)

ドイツの社會民主主義者。(一八二五年生—一八六四年死)一八四八年の革命には共和主義者として活動して投獄され、出獄後一八六一年「既得権制史」を出版して社會主義者として認められた。彼は一八六二年ベルリン労働組合のため「労働者綱領」を講演し、一八六三年には自から首領となつて「全獨逸労働者同盟」を結成した。これが獨逸社會民主黨の前驅でゴータ大會でリープクネヒト派と合同したのである。彼は賃銀鐵則と労働者階級の解放は生産組合にあると主張し、且つブルジョア國家の手によつてそれを成し遂げようとしたもので、今日の獨逸社會民主黨の裏切を準備したところの國家主義者であつた。一八六四年一婦人との戀を争つて決闘し其爲死傷した。

四二四

ラツボポール (シャルル)

フランスの共產主義者。一八六五年ロシアに生れたが一八九九年パリに移りフランスに歸任した。フランスに於けるマルクス主義の理論家で、且つてゲイドの「社會主義」誌等に寄稿し、「人道」を編輯したこともある。其後フランス共產黨の指導者となり一九二二年フランス共產黨を代表してコミンタン大會に出席した。著書「進化論と歴史哲學」「社會革命」「共產主義の大要」等がある。

ラデツク (カール)

元ロシア共產黨執行委員及コミンタン執行委員。現在は在モスコウ孫逸仙大學總長。オースタリイ人で一八八三年に生る。ガリシヤに於いて労働運動に携り、一九〇五年のポーランド革命に参加し、一九〇七年まで「赤旗」の編輯者であつた。其後獨逸に於いてルクセンブルグ等と活動し、カウツキー一派

の合法主義と闘争した。三月革命の際レーニンと共に歸國したが假政府は彼の入國を拒絶したので、ストツクホルムでボルシェビキと國外共產主義者との連絡の任に就いた。十一月革命後ロシアに入り、ロシア共產黨員となり、一九一八年にはロシア共產黨を代表してドイツ共產黨の組織及獨逸革命を指導した。彼は革命に失敗し獨逸政府に逮捕されたが、一九一九年釋放されて歸國し、一九二四年まではロシア共產黨執行委員及コミンテルン執行委員として西歐の革命運動を指導してゐた。しかし彼は、トロツキーと共に反幹部派運動を起し、黨第十五回大會で除名され、今日では孫逸仙大學の校長としてのみ存在してゐる。

ラファルグ (ポール)

フランスのマルクス主義者。(一八四二生—一九一〇死)パリで社會主義運動に加はり一八六六年

(ラ・リ)

ロンドンに移りマルクスと相識り、マルクスの指導を受けマルクスの娘ローラと結婚した。一八八二年フランスに歸り、ゲイドと共にマルクス主義のために戦ひ、フランス労働運動を指導してゐた著書「社會經濟學」「資本の宗教」「共產主義と經濟的發展」「歴史に於ける理想主義と唯物論」「財産の起源と發達」等がある。

【リ】

リヤザノフ (ダウイド・ポリソウイチ)

ソビエツト聯邦のマルクス・エンゲルス研究所長。一八七〇年オデッサに生る。一八九〇年オデッサを中心に革命運動に身を投じ、一八九一年に四年間の禁錮に處せられ、其後亡命、歸國等の中に運動を続け、一九〇九年以來レーニンの指導の下に活動し、黨の教育事業に携はつてゐた。三月革命後歸國し、

四二五

十一月革命成功後は共産黨大學の創設、マルクス・エンゲルス研究所設立に努力し其の所長となつた。
(マルクス・エンゲルス研究所の項参照)

リカルド (ダヴィッド)

英國の經濟學者。一七七二年生—一八二三年死。
リカルドはスミスの繼承者で、ブルジョア經濟學の最も有力な建設者の一人である。彼の經濟學の對象は價值論、價格論、分配論等であつて、就中價值論地代論はマルクスの批判の對象となり、マルクスの價值論はこれを批判的に變革し發展せしめたものである。主著「經濟學及課税の原理」及「金銀塊の價值」がある。

リツケルト (ハイリツヒ)

ドイツとの小ブルジョア哲學者(一八六三年生)
最近の新カント學派の代表者で、彼はマルクス主義の哲學的基礎をカント主義によつて至めることに懸

命となつてゐる。著書「認識の對象」「自然科学的
概念構成の限界」「價値の體係」「哲學の體係」等々。
リーブクネヒト (ヴェイルヘルム)

ドイツの社會主義者でカール・リーブクネヒトの父。一八二六年生—一九〇〇死。一八四八年以來ドイツ革命運動に参加し、ロンドンに亡命中マルクスと議り、其の指導を受け、一八六二年歸獨し、爾來ペーベル等と共にドイツ社會主義運動のために戦つた。投獄數回。著書「土地問題」「フランス革命史」「カール・マルクス傳」「英國價值學說史」等。
リーブクネヒト (カール・アウグスト・フェルディナンド)

獨逸の共產主義者。一八七一年ヴェイルヘルム・リーブクネヒトとの子として生る。ローザと共にドイツ社會民主黨の革命派として闘争し、一九一二年議員となり、一九一四年の歐洲大戰中は猛烈に反軍國

主義戦争反對の運動を組織し、一九一六年議會で軍事豫算に反對し之を痛撃し、同年五月反戦運動を全國的に捲起したので四ヶ年の禁錮に處せられた。一九一八年ドイツ革命の直前に釋放され、直ちにスバルダカス團の指揮者となり、同年十二月プロレタリア獨裁ソビエツト政府の樹立を主張して戦つたが、シヤイデマン、エーベルト等のドイツ社會民主黨の裏切によつて失敗し、一九一九年一月十五日、彼はローザ・ルクセンブルグと共にシヤイデマン政府によつて撲殺された。國際プロレタリアートは、毎年一月十五日をカール・ローザ・デーとして彼の闘争を記念し、且つ戦争反對並社會民主主義紛碎のために示威運動を組織してゐる。

リトヴィノフ (マクシム・マクシモウイチ)

ソビエツト・聯邦外務人民委員長代理。一八七六年生。十七歳の頃より革命運動に参加し、一九〇〇

年に檢舉され脱獄して國外に亡命し、「イスクラ」の編輯に携り一九〇三年ボルシェイキに加はつた。十一月革命後駐英大使、エストニア駐在ソビエツト全權等を経て現地位に選任さる。主とし歐洲方法の外交事務を擔當し、ゼノア會議、ヘーグ會議にも出席し、一九二七年軍縮會議では軍備全廢を力説したこともあつた。

李大釗 (リタイケウ)

支那共產黨の指導者で、北方地區の責任者であつたが一九二七年張作霖の軍隊が北京ソビエツト大使館を搜索した際逮捕され銃殺された。

廖仲愷 (リョーチケウ) (一八七七生—一九二九年死)

彼は支那共產黨の功勞者で、且つ國民黨幹部であつた。一九二〇年孫文の廣東政府の財政次長となり度々ロシアとの間を往復し、又熱海にヨツフェと會

見し、或はポロイチンと協力して支那革命を共産黨の指導の下に發展せしめることに努力したが、一九二六年國民黨右派の手によつて暗殺された。

【ル】

ルイコフ (アレクセイ・イワノヴィチ)

ソビエツト・聯邦人民委員會議長、ソビエツト・聯邦勞働及防衛會議々長、全聯邦共産黨中央委員及政治部員。一八八〇年生。中學時代より革命運動に参加し、度々檢舉投獄され、一九〇五年にはボルシエビキの中央委員に選出されてゐた。一九〇五年から一九一七三月まではベトログラード及モスコを中心活動し、其間數回投獄、流刑され亡命、歸國等の中に革命運動を續けて來た。三月革命後モスコで活動し十一月革命後には内務人民委員長、最高經濟會議々長等に歴任し、又全露中央執行委員、

共産黨中央委員會に選出された。一九二二年レーニンの病氣中レーニンの推薦によつて人民委員長代理となり、一九二四年レーニンの死去と等に現地位に就いた。尙、ルイコフは一九〇五以來の黨中央委員で、且つレーニンの指導を常に受けてゐたが、一九二八年以來右翼的偏向問題で黨中央委員會から警告されてゐた。

ルクセンブルグ (ローザ)

ドイツの婦人共産主義者でドイツ共産黨の創設者の一人。一八七一年ポーランドに生る。學生時代にマルクス主義者となり、一八九三年ポーランド社會民主黨を組織し、革命運動を續けたが一八九七年ドイツに亡命し、爾來ドイツ社會民主黨の革命派として活動した。歐洲大戰中レーニンと共にスツットガルト決議を起草したこともあり、又スバルタカス國をリープクネヒト、メーリング、ツエ

トキン等と組織し、戦前反對と革命とに献身的に活動し、大戰中三ヶ年半は獄中に投ぜられてゐた。一八八一年十一月ドイツ・ブルジョア革命後リープクネヒトと共に「赤旗」を創刊し、獨逸産共黨を組織し、プロレタリア獨才の革命を實現せんとしたがエーベルトやシャインデアン等のドイツ社會民主黨假政府の手によつて一九一九年一月十四日夜惨殺された。著書「社會改良か革命か」「資本蓄積論」「經濟學入門」「ロシア革命」等。

ルスタツク (ヤコフ・エルネストヴィチ)

ソビエツト・聯邦人民委員會議長代理、交通人民委員長、全聯邦共産黨中央委員並政治部員。一八八七年生リガで職工をしてゐる時から革命運動に身を投じ一九〇六年逮捕され十年の禁錮に處せられた。一九一七年三月革命後釋放され、十一月革命後全露勞働組合中央評議會幹部となり、モスコ經濟議會

議長、最高經濟會議々員、共産黨中央アジアビュロ議長等を経て、一九二四年交通人民委員長、人民委員會議長代理となり、更に一九二六年共産黨中央委員並政治部員となる。

ルソー (ジャン・シャツク)

フランスの自由・平等論者。一七一二年生一七五〇年死。近代ブルジョア自由主義の選手である。著書「社會民的論」「不平等に關する所見」の外「エミール」「懺悔録」「新エロイズ」等の小説及自傳がある。

ルナチヤルスキー (アナトール・ワシリエキツチ)

ソビエツト・聯邦の教育人民委員長で且つ文學者一八七五年生。中學時代から革命運動に参加し、度々逮捕投獄され、一九〇四年亡命しボルシエビキ機關紙「フベリョード」「プロレタリア」等の編輯に携はつてゐた。一九〇八一二年の反時動代にボ

グダールノフ等と共に經驗批判論を黨に導入し黨から除名されたこともある。歐洲大戦中はインタナショナルナリストとしてパリで反戦運動に参加し、三月革命後歸露し、ボルシエビイキに加入した。十一月革命後教育人民委員長に擧げられ現在に至る。著書「藝術の世界に於て」「資本主義時代の教養」等がある。

【レ】

レーニン (ニコライ)

第三インタナショナルの創設者で國際プロレタリアートの偉大な指導者であり、特殊的にはロシア革命並ツビエツト・聯邦の最大の指導者であつた。本姓はウラヂミル・イリイッチ・ウリヤノフと呼び一八七〇年四月十日にロシアのシンビリクスに生る。兄アレキサンドラは露帝アレキサンドル三世の暗殺を企て、一八八六年に死刑に處せられた。レーニン

は其頃から革命運動を志し、一八九一年ペテルブルグ大學に學んだが、専らマルクス主義を研究し同志と共に「労働階級解放闘争同盟」を組織しペテルブルグに於て活動し一八九七年逮捕されシベリアに三年間流刑に處せられた。流刑地に於いて同志と連絡すると共にマルクス主義を研究し、且つ「ロシアに於ける資本主義の發達」を著作した。一九〇〇年刑を終り、直ちに西歐に亡命し一九〇一年マルトフ、プレハノフと共に「イスタラ」の編輯に努力し、「修正派マルクス主義」及「經濟主義」に對して猛烈に闘争し、革命的政治闘争を高唱した。一九〇三年ロシア社會労働黨第二回大會では黨の組織問題及黨員の資格に就いてマルトフ、プレハノフ派の小ブルヂョア分子と論争し、レーニンの主張は労働者の壓倒的支持を得て、ボルシエビイキの首領となつた。こゝにボルシエビイキとメンシエビイキは全く分裂

し、レーニン等は「フベリョード」紙を發刊して革命運動を指導し、一九〇五年にロシアに革命が起きるやレーニンは直ちに歸國し「労働者・農民の政權の樹立」のスローガンを掲げて革命を指導すると共にカデツトやメンシエビイキと闘争したが、敗北し再び外國に亡命した。一九〇五年後の反動時代にメンシエビイキは黨の解體を要求し、清算主義の毒素を撒き散らしたので、彼は徹底的に之を粉碎した。一九一四年歐洲大戦が開始するや非戦論を高唱し、第二インタナショナルの日和見主義と裏切に容赦なく闘争し、リーブクネヒト、ルクセンブルグ、ラデツク、ジノビエフ等と共にチンメルワルド及キンタール會議を開催し歐洲大戦に反對しこれを世界メキシクに導くべきことを提唱した。ロシアに一九一七年の三月革命が起きるや同四月ベトログラードに歸り、ケレンスキの臨時政府の戦争繼續に反對し、プロ

レタリア獨裁を煽動し、同年十一月にはケレンスキ政府を顛覆し、ソビエツト政府を樹立し選ばれて人民委員會議長となつた。レーニンは十一月革命後戦時共産制によつて労働者農民の武装により反革命の鎮壓並資本主義制度の破壊と共産主義社會の建設及ソビエツト・聯邦の發展に最大の努力を拂ふと共に一九一九年には第三インタナショナルを創立し、世界革命運動を指導した。次に一九二二年には新經濟政策を採用し、ソビエツト・聯邦の社會主義經濟の建設に努力したがプロレタリア解放運動のために身體を磨り減らし一九二三年病を得、一九二四年一月二十一日遂に世界プロレタリアートの悲しみのうちに死去した。又、レーニンが政治家として最も偉大な點を發輝した瞬間は十一月革命の「一切の權力をソビエツトへの」スローガンを示して權力を獲得した時、プレスト對獨媾和條約の瞬間、及新經濟政

彼の瞬間並黨の組織問題であつたと言はれてゐる。次に

重要著作年表は次の如し。

- 一八九三年「農民生活に於ける新しき經濟的動向」。
- 一八九四年「人民の友とは何ぞや」「罰金について」
- 「人民主義の經濟的内容」。
- 一八九七年「綱領草案」
- 「社會民主主義者の任務」
- 「經濟概念及其研究」。
- 一八九九年「ロシアに於ける資本主義の發達」。
- 一九〇一年「労働者黨と農民」「何から始むべきか」。
- 一九〇二年「ロシア社會民主主義者の農業綱領」「何を爲すべきか」
- 「第二大會に於ける演説」。
- 一九〇三年「貧農に與ふ」。
- 一九〇四年「一步前進二歩退却」
- 「自治會選舉とイスクラの戰術」。
- 一九〇五年「民主主義革命に於ける二つの戰術」。
- 一九〇六年「議會と社會民主黨」「立憲民主黨の勝利と労働者黨の任務」
- 「ストツクホルム大會に於ける農業綱領」

「労働者黨の農業綱領改訂」。

一九〇七年「ブレハノフは社會民主黨の戰術を如何に排撃したか」「國會解散とプロレタリアの任務」

「モスコ一揆の教訓」

「對資本家黨態度」

「反ボイコット」。

一九〇八年「一九〇五―七年ロシア第一革命に於ける社會民主黨の農業綱領」

「唯物論と經驗批判論」

「マルクス主義と修正主義」。

一九〇九―一〇年「カデツトとの提携に就て」

「メンシエヴィズムの危機」

「ロシア革命に於けるプロレタリアートと其同盟者」

「ロシア革命におけるプロレタリアの闘争目的」

「召還主義及創神主義の分派について」。

一九一三年「カール・マルクスと其學說」

「社會主義インターナショナルの任務と立場」。

一九一五年「社會主義と戰爭」

「資本主義の最新の段階としての帝國主義」。

一九一七年「瑞西労働者への手紙」

「戰術に關する手紙」

「ロシア革命に於けるプロレタリアの任務」

「スロ

「ガンに就て」

「農業問題の資料」

「革命の一の根本問題」

「革命の教訓」

「農業に於ける資本主義發達の法則の新しい資料」

「國家と革命」

「カタストロフの到来」

「ボルシェヴィキは權力を保持しうるか」

「媾和宣言」

「土地問題について」

「憲法會議に關するテレーゼ」。

一九一八年「革命戰爭」

「ソビエツト政權當面の任務」

「今日の主要任務」

「左翼の兒戲と小ブルジョア根性について」

「世界帝國主義とソビエツト政權」

「プロレタリア革命とカウツキーの變節」

「ブルジョアに對する五つの回答」。

一九一九年「ブルジョア民主主義とプロレタリア民主主義に就て」

「第三インタの史的立場」

「コミンタンの任務について」

「ブルジョアは如何に變節者を利用するか」

「プロレタリア獨裁の段階における經濟と政治」

「議會選舉とプロレタリアート獨裁」。

一九二〇年「共產主義左翼小兒病」

「英國労働者への手紙」

「民族問

題被民地問題に對する草稿」

「コミンテル第二大會演説論綱」

「青年同盟の任務」

「獨裁問題の歴史」

「利權について」。

一九二二年「労働組合問題同志トロツキーの誤謬について」

「再び労働組合問題―トロツキー、アヘーリンの誤謬」

「共產黨十回及コミンタン第三回大會の演説」

「清黨問題について」

「現在及社會主義の完成なる勝利後における金の意義に就て」

「ソロコフへの手紙」。

一九二二年「ドイツ共產黨への手紙」。

一九二三年「我等の革命について」

「労働監督委員會を如何に改造すべきか」

「協同組合論」

「少なりとも善なるがよし」。

レブセ (イワン・イワノウイチ)

一八八九年生。全聯邦労働組合中央評議會幹部員。全聯邦金屬工組合中央委員會々長、全聯邦共產黨中央委員及び組織部候補であつたが一九三〇年病死した。一九〇四年ボルシェヴィキに入黨、一九二五年

(レ・ロ)

汎太平洋労働組合会議への出席の露途、日本に立寄つたことがある。

レベシンスキイ (パンテレイモン・ニコラエヴィナ) 在モスコイ国際赤色救援會(モツプル)會長。一八八六年生。一八九五年ボルシエビイキに加盟し、十一月革命後教育人民委員會參與及委員長代理、ロシア共産黨史編纂委員等であつたが一九二四年現地位に選任さる。

【ロ】

印度共産黨の指導者。第三インターナショナルの執行委員。植民地問題に關する理論家で「印度革命」等の著書がある。

ロゾフスキー (ア・エス)

全聯邦労働組合中央評議會幹部、全聯邦共産黨中

四三四

央委員候補者、プロヒンテルン書記長で國際赤色労働運動の指導者。一八八八年ユダヤ人の子として生る。一九〇二年ロシア社會民主黨に加盟し、一九〇五年カザンの暴動を指揮して逮捕され、二年投獄の後シベリアに追放さる。途中逃走し外國に亡命しボルシエビイキと連絡をとつて活動してゐた。歐洲大戰後は巴里でトロツキー、アントノワ等と「ナールゴロス」「ナールシ・スローヴォ」等の新聞を發刊してゐたが一九一七年五月ロシアに歸り全露労働組合中央評議會書記、鐵道従業員組合書記を経て、一九一九年全露労働組合中央評議會幹部となり(組織部長及機關紙「労働運動」主筆)となり、一九二〇年にはプロヒンテルンの組織に貢献し、第一大會以來其書記長に選任されてゐる。英露委員會、太平洋労働組合會議に出席し常に國際赤色労働組合運動の發展に努力してゐる。

ロイドベルツス (カール)

ドイツの國家社會主義者。(一八〇五年生—一八七五年死)彼はプロシアの文部大臣となつたこともあり、國家主義の立場から賃銀契約廢止、標準労働日労働券紙幣、標準賃銀等を主張し、又剩餘價值論や地代論においてはマルクス主義に反對してゐた。著書「現代における土地所有に對する信用状態の説明と矯正」「吾財政状態確認」等がある。

【ツ】

渡邊政之輔 (ワタナベマサノスケ)

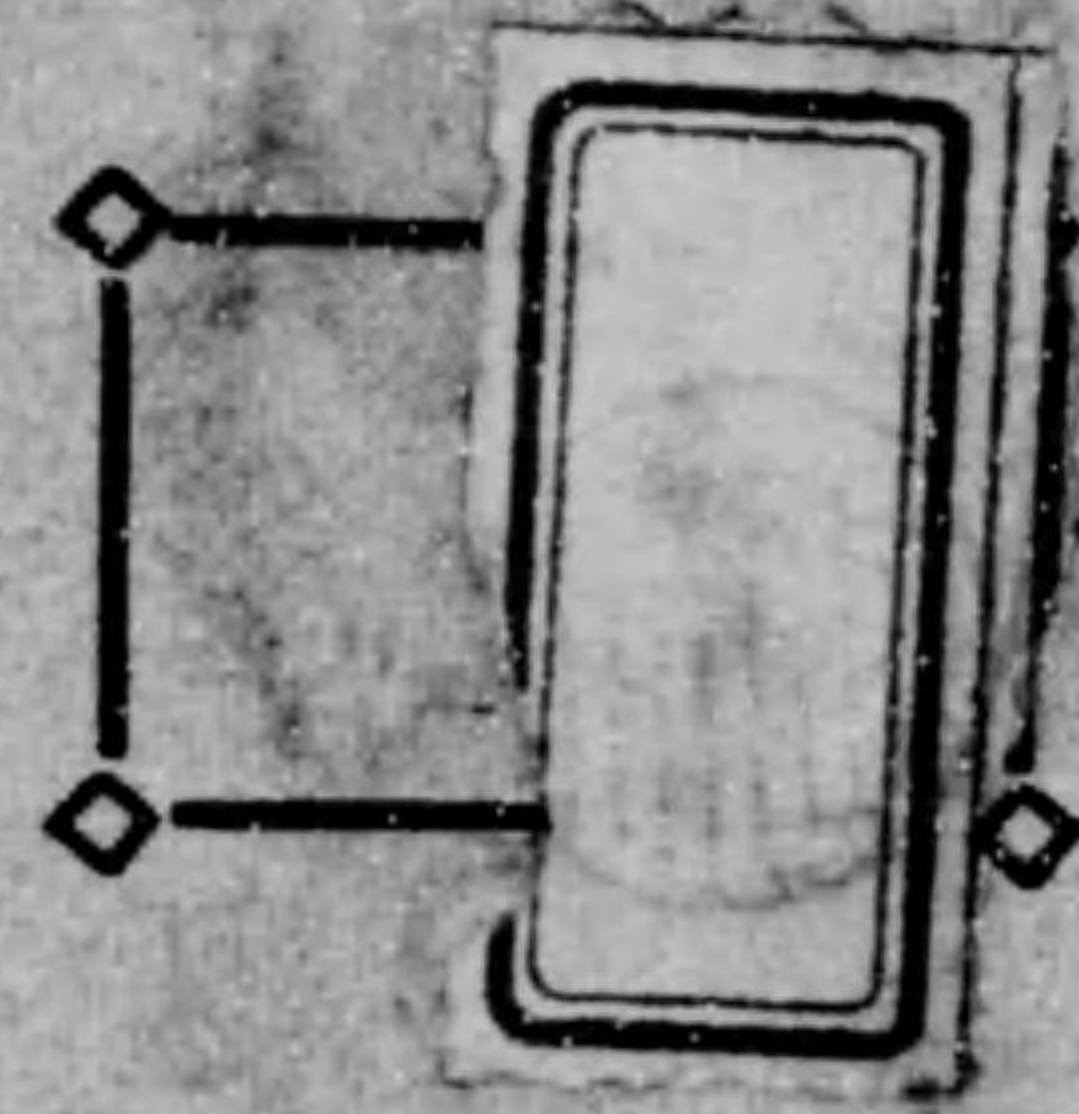
明治二十八年千葉縣市川に生る。労働者出身で、大正七年頃より労働運動に参加し、南葛労働會を創立し、日本社會主義同盟に参加してゐた。大正十一年日本×××に加盟し、且つ日本労働總同盟に加入し組合内に於て革命的少数派運動を指導してゐた。

(ア)

大正十二年五月共産黨被告として検挙投獄さる。大正十三年總同盟のダラ幹から除名され、同十四年五月杉浦、三田村、鍋山、山本氏等と日本労働組合評議會を創立し、續いてレフトをも結成して其の指導の任についた。他方彼は××××の中央執行委員として大正十五年には×創立大會を擧げ、昭和二年コミンタンへ代表として出席し、爾來×中央執行委員及書記長として活動した。三・一五事件の一齊檢擧には彼は巧に逃れ、×の再建と大衆闘争の組織の爲に奮闘し、同年秋連絡のため上海に渡り、歸路臺灣キールンに於て×さる。彼は實に×××的黨及組合の創立者であり最大の組織者、指導者であつた。彼の死が傳はるやコミンタン及プロヒンテルンは世界の労働者に檄を發し、又日本の革命的労働者は昭和四年一月十五日「山宣」と共に「労働者葬」を大衆的に執行し、彼の××の事業を繼承する事を誓つた。

四三五

昭和五年十一月十二日印刷
昭和五年十一月十五日發行



定價六十錢
特價五十錢

發行所
東京市神田區錦町一ノ十二
編輯者 藤岡淳吉

印刷者 早瀬三男

印刷所 東京市麹町區有樂町一ノ四
早瀬印刷合資會社

發行所

東京市神田區錦町一ノ十二
振替東京六九七四五番

共生閣

日念記争闘アリタレロフ際國

一月十五日	カール・ローザデー……………	(三五頁参照)
一月二十一日	レーニンデー……………	(三五〇頁参照)
三月六日	國際失業反對デー……………	(一三二頁参照)
三月八日	國際婦人デー……………	(一〇五頁参照)
三月五日(日本)	三・一五事件闘争記念日……………	(一一七頁参照)
三月十八日	(パリ)・コンミュン記念闘争日……………	(二四七頁参照)
四月廿日(日本)	四・一六事件闘争日……………	(一二九頁参照)
五月一日	メイデー……………	(三二二頁参照)
五月五日	マルクス記念日……………	(三一頁参照)
七月第一土曜	國際消費組合デー……………	(一五四頁参照)
八月一日	國際赤色デー……………	(一〇三頁参照)
九月第一日曜	國際青年デー……………	(一〇四頁参照)
十一月七日	ロシア・革命闘争記念日……………	(一〇五頁参照)

一九三〇

自

一九三三

田

仁

Y.50